

確かな暮らし 未来につなぐ田園都市

地域と学校とが協働して取り組む
塩尻市 コミュニティ・スクール
2020年度 実践集

2020年度 塩尻市コミュニティ・スクール実践集のテーマ

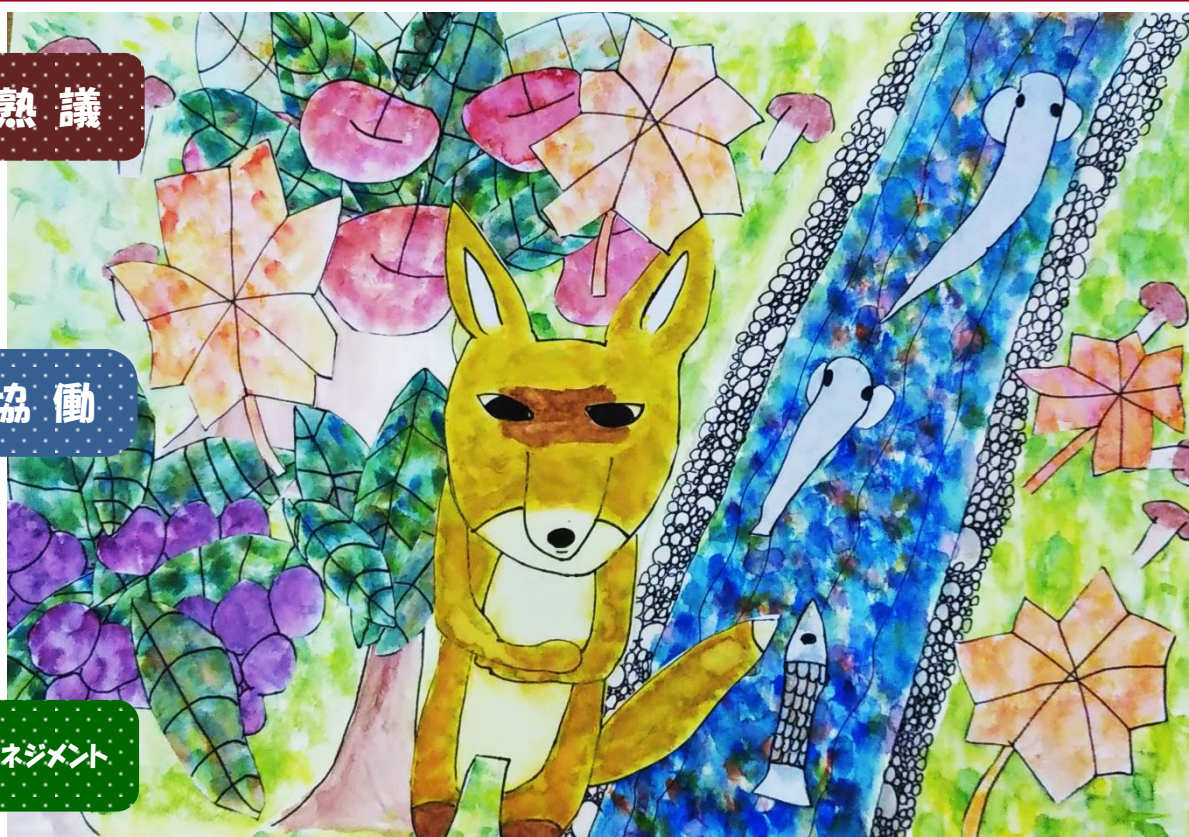
アンダー コロナ禍 未来につながる大きなチャレンジ!

～ つながり 広まり 深める 各校のコミュニティ・スクール(CS)活動 ～

熟議

協働

マネジメント



〈絵「反省中のごん」吉田小4年 井出 采咲 さん〉



塩尻市教育委員会

○巻頭言 「つながり 広まり 深める コミュニティ・スクール」 1

塩尻市教育長 赤羽 高志

■ **塩尻中学校区**の取組み

- *塩 尻 東 小..... 2～ 3
- *塩 尻 西 小..... 4～ 5
- *塩 尻 中..... 6～ 7

■ **広陵中学校区**の取組み

- *桔 梗 小..... 8～ 9
- *広 丘 小.....10～11
- *広 陵 中.....12～13

■ **丘中学校区**の取組み

- *片 丘 小.....14～15
- *吉 田 小.....16～17
- *丘 中.....18～19

■ **塩尻西部中学校区**の取組み

- *宗 賀 小.....20～21
- *洗 馬 小.....22～23
- *塩尻西部中.....24～25

■ **桧川中学校区**の取組み

- *木曽桧川小 *桧川中・・26～33

■ **両小野学園**の取組み 〈保小中一貫教育・両小野学園〉

- *両小野学園（小野保育園・北小野保育園・両小野小・両小野中）
..... 34～39

● **参考「地域と学校とで協働して育てたい子どもの姿」** 40～45

*平成29年度第1～2回学校運営協議会におけるGWを通して共有したもの

● **「コロナ禍のこの1年をふり返って」(学校支援コーディネーター)** 46～57

*田中 保治 *上本 好美 *塩原 章一 *三村 千家子 *唐澤 理恵 *重 勇雄

● **〈特別寄稿〉「コミュニティ・スクール指定からの5年間をふり返る」** 58～64

*市内小中学校の学校運営協議会会長14人からの特別寄稿〈塩尻市CS指定5周年記念〉

◆ **「塩尻市教育委員会の窓から」** 65～70

塩尻市教育委員会 教育総務課 地域連携コーディネーター 池上 良満



「トンボと花の上をさんぽ」
桔梗小3年 鈴木 瑠美 さん



「にじ色で、きれいなモチモチの木」
広丘小3年 奥村 英理沙 さん

「つながり 広まり 深める コミュニティ・スクール」

塩尻市は全ての皆様のご協力のもと「一人ひとりの育ちに、ていねいに向き合う教育」を基本理念として教育政策を推進しております。

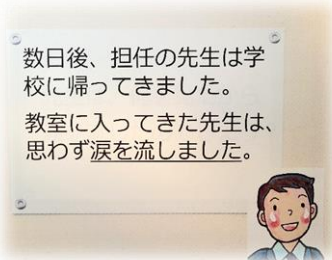
(1)「社会を生き抜く力」を備えたひと

社会情勢の変化の中で、「知」・「徳」・「体」のそれぞれの要素を伸ばし、自らが価値判断をし、目標や、やりがいを見つけ、社会を形成する一人として前向きに社会を生き抜く力を備えたひとを育成します。

(2) 郷土を知り、誇りと愛着をもったひと

地域の良さを体験し、気づき、自分のものとする学びを通して、広く社会で活躍する際の自らの拠り所として、自己を支える郷土に対する誇りと愛着（郷土愛）をもったひとを育成します。

4月、入学式を終えた3日後新型コロナウイルス感染拡大防止のため再び臨時休校措置が講じられました。5月分散登校後、学校再開6月1日朝、私はいつもとは違う通勤路を通りました。広丘小、広陵中、丘中、片丘小そして塩尻中、西小の学区のコースを車で回りました。登校していく多くの子ども達の目元はもとより、マスクで覆われた口は見えませんでした。明らかにその口元もほほ笑んでいました。保護者、先生方、多くの地域ボランティアの皆様に見守られながら学校へと登校して行く子ども達の姿をこの目で確認しました。その日から数日かけまして、授業や下校の様子を含め、全学区をまわりました。修学旅行、部活動大会など学校行事の延期や中止等我慢することたくさんありましたが、友や先生、地域の皆様との活動を通じ、学びを深めた一年となりました。詳しくはこの実践集に写真と共に全て語られております。各校らしい貴重な実践に胸が高鳴り、最後まで一気に読み切ってしまいました。一年間の実践はもちろんですが、この実践集が記録として刊行されたこと誇りに感じております。ありがとうございました。



私は2月、「ストップ コロナ差別！」ビデオメッセージを市長さんと共に発信しました。内容は香川県教育委員会制作（承諾）『先生の涙』です。ある小学校の学級担任の先生が、新型コロナウイルスに感染しました。その小学校は、その日からしばらくの間休校となり、消毒作業が行われました。数日後、担任の先生は学校に帰ってきました。教室に入ってきた先生は、思わず涙を流しました。「先生は、何を見たから涙を流したのでしょうか？」

先生が教室に入ったときに「おかえり先生」とともに、子ども達の温かいメッセージが書いてある黒板を見ました。クラスの子ども達が先生を温かい言葉で迎えるために書いたのです。先生はうれしい気持ちでいっぱいになり、泣きました。

感染した人やその家族、職場の人など、当事者の立場に立って考え、行動する事が何より大切です。ずっと素敵な塩尻市であり続けたいです。



塩尻市教育長 赤羽 高志

塩尻東小学校コミュニティ・スクール

コロナ禍の本年度、どんな活動ができるか模索の連続でした。「感染予防に努めながら」「できることから通常にもどして」「どんな工夫をすればできるか」を意識して、コミュニティ・スクールの活動に取り組んできました。

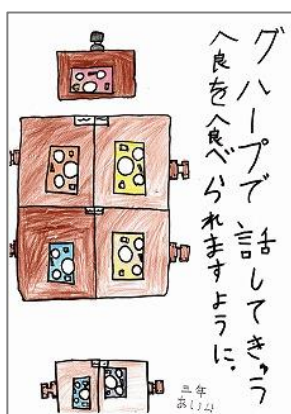
◆子どもたちが思い・願いを込めた行灯メッセージ



大晦日、阿禮神社参道に設置されたメッセージ行灯



メッセージ制作中



「子どもたちの声で少しでも地域に元気を！」の思いで取り組んだ2020年。全校児童一人ひとりが、この一年を振り返っての思いや新しい年に向けての願いなどを表現したメッセージを行灯に組み込んで、校内や大晦日の阿禮神社境内に展示・設置しました。地域の悠々くらぶ、阿禮神社の宮司さん、総代の皆様のご協力をいただき実現しました。



校内展示の準備中



校内展示の見学



阿禮神社への設置作業

◆再開した学校支援ボランティア活動



クラブ活動

発足した 10 のクラブで地域講師の皆様にご指導いただきました。



放課後学習コーナー

毎週水曜日に開催。机に透明の仕切り板を設けて実施しました。



図書館ボランティア

壁面装飾作成や本の修理など、図書館の環境整備を行っていただいています。本年度は、図書館の椅子の座布団も手作りで制作していただきました。



読み聞かせボランティア

10 月から毎月実施。子どもたちを本の世界に誘ってくださいます。



見守りボランティア

分散登校から子どもたちの安全を見守っていただいています。

◆地域のために私たちができること



隣接の阿禮神社や周辺道路の落ち葉清掃を行いました。



保育園交流では、手作りリングバトンでつながって校内探検をしました。



塩尻志学館高校書道部とコラボし、全県に元気を届けようと 24 時間テレビでメッセージを発信しました。

地域に支えられて

塩尻西小学校

今年度はコロナ禍により、計画していた活動の多くが中止せざるを得ない状況になりました。その中でも、子どもたちの未来のために、アイデアを出し、工夫や努力を重ねて実現した活動がありました。

学校運営協議会、地域教育協議会をはじめ、地域の皆様のお力添えを心強く感じた一年でした。



6月の臨時休校明け、児童下校後の消毒作業、校舎清掃に多くのボランティアさんが毎日放課後來校されました。おかげで教職員の負担が減り、授業準備や打ち合せ等会合の時間確保ができました。

子どもたちは感染症防止特別日課中のボランティアさんの存在を知り、感謝の気持ちを持ちました。自分たちと入れ替わりに来校される方々に見てもらおうと、児童玄関のホワイトボードにメッセージを書いて伝えました。

7月、児童の清掃活動が始まりました。ボランティアさんが毎日きれいに清掃してくれた校舎を、続けて清潔に保とうと隅々まで見つけ掃除を丁寧に行う姿に成長を感じました。

(右下の写真は1年生の床掃除の様子です)





【毎朝の登校 安全見守り】



【交通安全教室の指導】



【読書時間中の読み聞かせ】



【生け花クラブの外部講師】

生活科や総合的な学習の時間には、学年学級ごと特色のある学習が展開されました。

4年生は社会科「ごみのゆくえ」の学習から発展して、地域をきれいにしたいという願いから、標語やポスターづくりを経て、公園などに看板を設置しました。6年生は例年行っている「大門プロジェクト」の学習で、商店街に出かけて奉仕活動等を行いました。



【ゴミ捨て禁止看板設置】



【大門商店街への聞き取り調査】

塩尻中学校コミュニティ・スクール

コロナ禍で実施できるか心配だった総合的な学習の時間に行っている「地域ふれあい学習」。回数を減らしながら、講師の方々の協力を得て何とか行うことができました。



合唱・ゴスペル



書道パフォーマンス



阿禮太鼓



日 舞



箏



ダンス

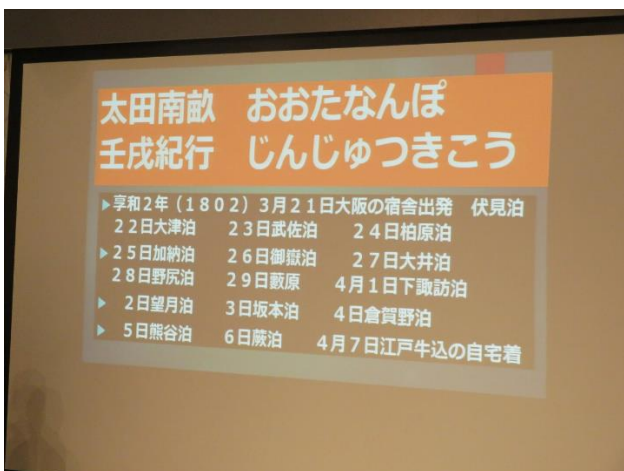
15の講座の中で、特に学習した内容を地域に発信したのが「地域の歴史講座」でした。



【旧中山道塩尻宿で塩尻陣屋や本陣跡の歴史を伝える説明板を設置した。】



【11月15日(日)除幕式の様子】



【11月15日(日)えんぱーくでの学習発表会の様子】

桔梗小学校コミュニティ・スクール ～コロナ禍でもできること～

令和2年度の桔梗小学校のCS活動

キッズお仕事チャレンジ	校内スタンプラリー & 新体育館建設
読書ボランティア	：年1回に縮小
庭木の剪定	：ボランティアのみで実施2回
教室等消毒作業	：ボランティア・民生委員・公民館
本の消毒	：読書ボランティア
七夕・クリスマスの飾り	：笹・クリスマスツリーの用意・装飾
算数九九学習支援	：学習ボランティア
塩尻志学館高校との交流	：塩尻志学館高校
通学路見守り活動	：見守り隊（安心安全ボランティア、塩尻警察ボランティア、青少年育成協議会）
2年社会見学	：見守り隊（学習支援ボランティア）

キッズお仕事チャレンジ

【校内スタンプラリー】



【前日準備】



【当日の様子】

【新体育館見学】



心身ともに健やかで明るい子ども
〈自尊感情の育成、健康的に生きる力の育成〉



《塩尻志学館高校との交流》

一年を通して3年生が塩尻志学館高校と交流をします。総合学科の生徒さんに教えてもらいながら野菜作りの活動をしました。

今年は、大根、とうもろこし、ジャガイモを育てました。

写真は、ジャガイモの収穫の様子です。

笑顔があふれ、心が優しい子ども
〈前向きな生き方・人間関係構築力の育成〉



《クリスマスツリー、七夕飾り》

今年は、学校が6月から始まり、様々な季節的な行事が中止となりました。

その中で、ボランティアさんが、七夕飾りの笹やクリスマスツリーを学校に寄贈してくださいました。子どもたちは、大喜びで飾り付けをしました。

写真は、七夕会の様子です。

子どもたちの安心・安全をサポートする
〈地域の力の結集〉



《消毒や見守り》

子どもたちが安心して学校生活を送れるように、地域の方々が、毎日教室などの消毒作業をしてくださいました。

また、見守り隊の皆さんが、毎日、登下校時の安全確保をしてくださいました。

写真は、見守り隊の様子。

残念ながら、中止になった活動
チャレンジクラブ 花の寄贈 読み聞かせ（1回中止） 感謝の会

コロナ禍の今できること 今だからできたこと

広丘小学校コミュニティ・スクール

奨善会（児童会） シトラスリボン・プロジェクト



奨善会の役員で作り方を教わって広めることに



放送で なかよし集会を行い、思いや願いを共有



家庭・学校・地域を表す3つの輪をつくる6年生



ランドセルやペンケースにつけて意識を継続

シトラスリボン・プロジェクトは、コロナ禍で生まれた差別、偏見を耳にした愛媛の有志が立ち上げたプロジェクトです。愛媛の柑橘をイメージしたシトラスカラーが特徴で、県内では、学校運営協議会委員で北部拠点センターえんてらすマネージャーの中野實佐雄さんが、いち早く取り組んでいました。

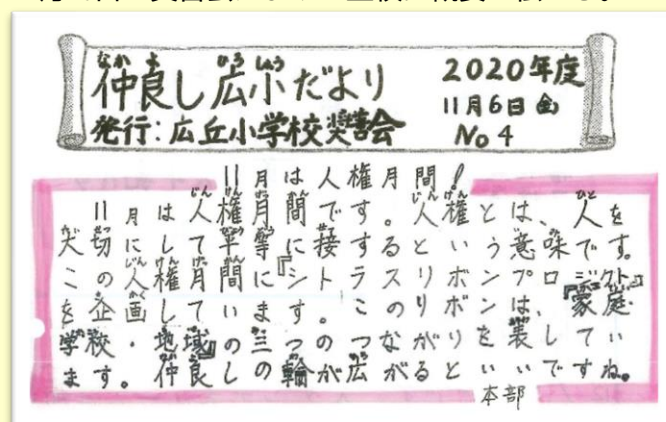
このことを知った奨善会（児童会）で、全校でこのプロジェクトに参加しようと決めました。リボンをつけることで、一人ひとりの児童が、差別や偏見を生まないと同時にあらゆる立場の方に思いやりの心を持つことを確かめ合っています。

おもな活動内容と日程

10月29日 奨善会正副会長が中野さんからプロジェクトについてのお話を聞く。

11月 4日 役員約40名が中野さんのお話を聞く。

11月 6日 奨善会だよりで全校に概要を伝える。



11月10日 リボンの作り方を講習する。

11月20日 なかよし集会で全校に参加を呼びかけ。

11月24日～26日 5年生がリボンの材料を準備。

11月27日～12月2日 6年生がリボンづくり。

12月 3日・4日 4年生がリボンにストラップ付け。

12月 5日～ 姉妹学級をとおして全校でランドセル等につける。

奨善会役員児童の感想より

全校のみんなが、配布したその日につけてくれて、やってよかったと思いました。クラスでも「シトラスリボンってどんな意味だっけ？」と興味をもったり、進んでリボンづくりをしたりする友だちがいて、みんなの意識が高まったと感じました。今年の奨善会目標「仲良し 広丘小! みんなでつなごう～あいさつ・公事・交流の輪～」を達成できたと思います。

今年度のおもな学校支援ボランティア活動

<4・5月の臨時休業期間を使った環境整備>



枝払いで校外行事の大型バス出入りもスムーズに



危険が伴う大木の伐採もこの機会に実施

<感染レベルに応じた3密対策をとって>



読み聞かせにプロジェクターを使用



手話の講習会は、距離をとりマスクを着用

<屋外の活動では できることを見極めて>



登下校の見守り、校外学習の付き添いで安心を確保



総合的な学習の時間でもできる範囲で継続支援

成果と課題

- 学校運営協議会委員のアイデアや地域とのパイプで、シトラスリボン・プロジェクトや樹木の整備等ができた。短歌館やえんてらす、地区公民館とも協力して活動を進められた。
- シトラスリボン・プロジェクトについて市民タイムスで紹介され、回復した感染者、近親者を新型コロナウイルス感染症で亡くされた方から「とても勇気づけられ嬉しかった」との声が寄せられたり、地域の方からも賛同や応援をいただいたりと、大きな手応えを感じた。
- 例年と同じ活動ができなかった支援部では、支援方法や内容を検討していきたい。



コロナ禍の中

地域と共にある学校を目指して

～ 広陵中学校 コミュニティ・スクール ～

ごみ拾い登校表彰



エコキャップの回収



広陵中学校の伝統として続けてきた「ごみ拾い登校」が、塩尻市衛生協議会連合会様から感謝状を、株式会社アイネット様より「しおじりあさひ環境大賞」優秀賞をいただきました。長年の地道な活動を評価していただきました。ところが、本年度はコロナ禍により、ごみ拾い登校ができなくなりました。

そこで、生徒会のボランティア委員会が中心となりエコキャップの回収を始めました。回収したキャップは、予防接種のワクチンとなり世界の子供達に送られます。この活動を知った地域の方も協力してくださるようになり、これまでにたくさんのエコキャップを集めることができました。

ぶどう作りについて 臼井さんより



粒ぬき作業



広陵中学校には、学校のぶどう園があります。毎年、1年生が、地域のぶどう農家である臼井さんに教えていただきながら栽培活動に取り組んでいます。本年度は、コロナ禍により、なかなか活動しにくい状況ではありましたが、臼井さんご指導の下、剪定したり粒抜きしたりしました。そして、9月にはたくさんのぶどうを収穫しました。例年、収穫したぶどうは、陵風祭を見に来られた保護者や地域の方、小学校6年生にお配りしていますが、本年度は、それができず残念ではありましたが、塩尻市が誇るぶどう栽培を学ぶ貴重な機会となりました。



絆の庭の整備



感謝の野点



読み聞かせ支援



あいさつ運動



エゴマの栽培活動



信越ホリマーさんで梅の収穫



見守り活動



日本語教室



茶道指導



七夕笹の提供



Connect with Local



松ぼっくりツリー贈呈



かぼちゃとったぞー

9月のある日、校舎西の学校園には、1年生が育てたぶどうの粒が雨露で美しく輝いていました。東側に目を転じると校舎の向こう側に美しい虹が輝いていました。本年度は、変えなければいけないこと、変えざるをえないことが続きました。しかし、自然の美しさはいつもと変わりません。

他にも、いつもと変わらないものがあります。それは地域の皆さんの学校に寄せる思いです。例年通りの活動はできませんでしたが、振り返ると、たくさんの方に教育活動を支援いただきました。生徒達は体験を通して、探求することの楽しさ、人の役に立ち喜んでもらうことの大切さを学びました。

広陵中学校は、これからも「地域と共にある学校」を目指していきたいと思います。

地域と共に歩む片丘小学校 (片丘小コミュニティ・スクール)



学校運営協議会長挨拶

学校運営協議会で、学校の運営方針をもとに、CS活動で目指す児童の姿を決め出し、今年度の活動が本格的にスタートしました。

CSで目指す姿

学校教育目標

- ・自ら学ぶ子
- ・正直で思いやりのある子
- ・健康でたくましい子

地域の方と共に学ぶ子

地域の方との
コミュニケーションを深める子

地域の方と共に汗を流す子

<地域の方と共に学ぶ子> を目指して



4年生は、「カタオカザクラ」保存会の皆さんに挿し木の仕方を教えていただき、一人一鉢でカタオカザクラの発芽に挑戦しました。自分たちの地域の名前のついた貴重な桜のことを教えていただき、愛着をもつことができました。



クラブデーでは、地域の方に講師をお願いしました。料理・スポーツ・木工・写真・茶道など、学校の教科の学習では、味わえない体験をさせていただきました。木工や写真の作品は、片丘公民館の文化祭にも展示発表しました。



6年生は、地域に詳しい方からお話を聞き、「猪土手」を作ったり、「狼煙」をあげたりする体験をしました。

<地域の方とのコミュニケーションを深める子> を目指して



距離をあげたり、プロジェクトを使ったりしながら、読み聞かせをしています。



ボランティアの皆さんを招待してコンサートが行なわれました。波田少年少女合唱団の公演と、小学校スクールバンドの発表を楽しんでいただきました。



子ども、保護者、地域の方、NPOなど、様々な方の交流の場「夕日食堂」を行いました。

＜地域の方と共に汗を流す子＞ を目指して



全校児童で収穫し、学年ごとに日や時間をずらして、焼きトウモロコシをやりました。ボランティアの方が炭火で焼き、保護者の方も多数参加して安全見守りやお手伝いをしました。

子どもたちは、採れたてで焼きたてのおいしいトウモロコシに歓声を上げていました。



4年生は、畑ボランティアの方に教えていただきながら、レタスの栽培に取り組みました。

収穫したレタスの活用について、クラスで話し合い、試食や宣伝などを工夫しながら販売活動をしました。また、レタスを使ったハンバーガーを作ってピクニックにも出かけました。



5年生は、分散登校の間に田植えをし、稲作に取り組みました。案山子を作ったり、鎌で稲を刈ったり、千歯こきで脱穀したり、体験を通して学ぶことができました。

収穫したもち米は、臼と杵で餅つきをしたり、地区の社会福祉協議会へ寄付したりしました。

12月の学校運営協議会では、今年のCS活動を振り返り、来年度の活動に向けての意見交換が行われました。

バイオマス発電所の見学や防災マップ作りなどの新しいアイデアや、さらに子どもが主体的に関わるように、「畑委員会」を立ち上げるなどの意見が出されました。

これからも・・・地域と共に歩む片丘小学校



グループでの熟議

臥薪嘗胆

吉田小学校コミュニティ・スクール

新型コロナウイルス感染症に翻弄された令和2年度。

吉田小学校も新年度が始まって3日後には臨時休校となりました。

5月の分散登校を経て、6月から一斉登校が再開。

学校は感染症対策を講じながら、毎日の授業や運動会や修学旅行、参観日などの行事に取り組んでいきました。一方で音楽会やPTAバザーのように行うことができなかったものもありました。

吉田小学校コミュニティ・スクールは「人との接触機会を減らす」ことを念頭にこれまでの活動をひとまず凍結しました。なぜなら、これまで学校の活動にご協力いただいていた学校支援ボランティアの皆様多くはご高齢であり、感染リスクを高める活動は見送らざるを得なかったからです。

しかしながら、この間、何もしてこなかったわけではありません。

5月の分散登校中、まだ通学になれていない1年生を見守るため、登校時に交差点や横断歩道で交通安全指導を行いました。

一斉登校再開後、6年生が行った環境保全活動（ゴミ拾い）の見守りをしました。

夏以降は学校運営協議会会長と地域教育協議会会長が月1回の懇談を校長と行い、学校の置かれている状況や子どもたちの様子を確認し合い、今こそリスクができることを検討してまいりました。その中で学校から要望のあった落ち葉掃きについて、学校支援ボランティアの有志で活動しました。

学校運営協議会を3回開催し、学校の運営方針の承認や意見交換を行いました。

また、来年度の「吉田夏ゼミ」にむけての企画委員会も定期的を開催しています。学運協で出された意見も取り入れながら、感染症対策をしながらできる講座についての検討を進めています。

今年は臥薪嘗胆の年。目に見える大きな活動や成果はありませんでしたが、次の時代を見据えてあり方を模索し続けました。

地域と学校が一体となって子どもの育ちを支えていける活動、吉田の未来を紡いでいける活動ができる日を待ち望んでいます。

そして、待ち望むだけでなく、今できることに気づき、考え、乗り越えていく活動を次年度も続けていきます。

年間活動報告

月 日	項 目	内 容	備考（会場等）
5月19日	コミスク懇談会①	情報交換（休校中の学校運営・児童の様子等）	校長室
6月15日	コミスク懇談会②	情報交換（児童の様子、感染症対策等）	校長室
7月10日	学運協小委員会	学運協①の内容検討	校長室
7月29日	学校運営協議会①	学運協委員の任命・学校運営方針の承認等	多目的室
9月 3日	コミスク懇談会③	情報交換（児童の様子、今後のコミスク活動等）	校長室
10月23日	コミスク懇談会④	情報交換（アクションプラン 2021 に向けて）	校長室
11月18日	学運協小委員会	学運協②の内容検討	校長室
12月 4日	夏ゼミ企画委員会①	夏ゼミ 2021 実施の確認、方向性の協議	地区センター
12月17日	学校運営協議会②	夏ゼミ 2021 の方向性や内容について熟議	多目的室
1月20日	夏ゼミ企画委員会②	夏ゼミ 2021 の感染対策や可能な講座の検討	地区センター
1月29日	学運協小委員会	学運協③の内容検討	校長室
2月 9日	学校運営協議会③	今年度のまとめ、夏ゼミ 2021 の方針確認 アクションプラン 2021 の検討	体育館 地教協と合同開催

※本年度中止となった事業

第1回学校運営協議会（4月16日予定）

第1回地域教育協議会（5月1日予定）

丘中学校区合同研修（7月29日予定）

吉田夏ゼミ2020（夏休み中を予定）

読み聞かせボランティア（通年を予定）

その他、各種行事・クラブ活動等への協力

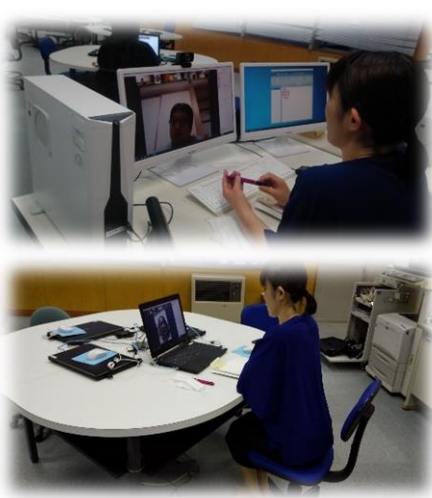
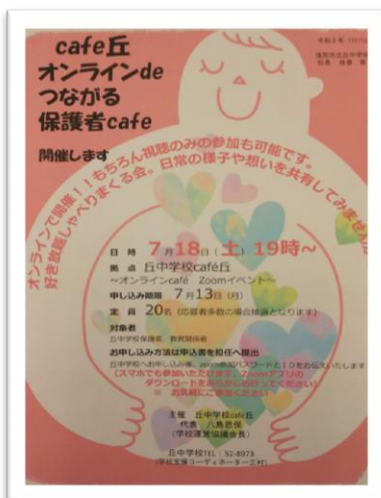


学校支援ボランティアによる落ち葉掃き



校長による教育活動の報告（第2回学運協）

オンライン de つながる保護者 Cafe（塩尻市立丘中学校）



地域の方との交流の場である Cafe 丘のオープン企画としてZOOMを利用してオンラインで実施しました。コロナ禍における子育ての悩み等について参加者同士で語り合いました。

感染防止対策も万全に「Cafe 丘」再開



地域住民が自由に行き来できる「Cafe 丘」を学校内に設け
地域ぐるみで生徒を育てていく拠点として



保護者の皆様へ
生徒の皆さんへ

今年もCafé丘始まるよ♡
気軽に楽しもう！！

場所：二階図書館横・学習室

Café丘

- ✿ 自由な交流スペース
- ✿ 居場所や休憩に
- ✿ 地域の方とおしゃべりに
- ✿ イベント場所に
- ✿ 教室とは、ちょっと変わった空間として

**10月21日（水）
いよいよ開店！！**

毎週水曜日 9:30～13:30

※感染対策実施いたします！！
マスク着用・手指消毒設置・体温測定・地域来店者記名
今年度は、飲み物は提供いたしません

丘中学校長 佐倉 俊
Café丘代表 八島 恵保

地域との交流（ボランティア）の様子（塩尻市立丘中学校）



片丘地区文化祭

ボランティアとして参加し、展示室の見守りやお茶のお運び、片付け等のお手伝いをさせていただきました。

吉田地区文化祭

受付・会場係として生徒達がボランティアとして参加しました。また、自分達で作ったグッズを販売させていただきました。



地域で活躍する先輩達から学ぶ様子



丘中創立 70 周年に向けて

- ①人物を辿る
- ②校歌・校章・制服の歴史
- ③校舎・部活動の歴史
- ④資料から歴史を辿る・行事の歴史
- ⑤丘中学校周辺の自然
- ⑥遺跡の歴史・学校の宝探し
(3学年総合的な学習において)



様々な分野で活躍する先輩から話を聞き、その思いや歴史について学び、後輩に伝えようと意欲的に取り組む姿が見られました。



地域のひと、地域を学び、のびのび育つ

～宗賀小学校 コミュニティ・スクール～

今年度当初は、コロナウイルス感染症の影響で、コミュニティ・スクールの活動が思うように行えませんでした。しかし、地域の方のご協力を得て感染予防に留意しながら、子どもたちの活動を支援していただき、充実した1年を送ることができたと感じています。

休校中 CSの皆さんに助けていただいたプール掃除



子どもたちが休校のため、いつもは子どもたち中心に行っているプール掃除を職員のみで行おうとしていたところ、ボランティアの皆さんが一緒にやってくださると声をあげてくださいました。半日かけて一緒にプールをきれいにしていただき、その後、PTA理事の皆さんのプール周り（トイレや更衣室等）の掃除を経て、無事にプールに水をはり、プール開きを迎えることができました。

今年も！ぶどう栽培



休校で心配されたのは栽培活動です。時期を逃すと育てることがむずかしくなるからです。授業時数の確保もあり、実際にできなかった活動もありました。そのような中で、今年度も5年生がボランティアの方に教えていただいて、ぶどうを育てることができ、たくさんのおいしいぶどうを収穫できたことは嬉しい出来事でした。去年は、保育園の年長さんとぶどうを収穫したり、運動会で来場した方にぶどうをお配りしたりしたのですが、今年度はそれがかなわず、かわりに、感染予防に配慮しながらぶどうをお届けに行きました。休校中、ボランティアの方が、子どもたちが来たらすぐに栽培活動ができるよう準備をしてくださっていたことにも感謝です。

ダイナミック！どんぐりプロジェクト♪



奈良井川で
川遊び！

奈良井宿へ
社会見学！



どんぐりの森で
遊ぶ！

森林公社の方も
一緒に
森の健康診断



どんぐりプロジェクト♪の皆さんには、今年度も様々な子どもたちの校外学習をご支援いただきました。野外での活動が多いので、コロナ禍であっても、ダイナミックな活動が展開されました。子どもたちは、地域の中で、遊びや体験を通して学びを深めることができました。

読み聞かせ



ボランティアの方による読み聞かせは11月から再開しました。子どもたちが読み手の近くに集まることはせず、席でお話を聞くようにして距離をとっています。

感染予防対策をボランティアの方とともに

11月より子どもと一緒に活動するボランティアの方に、健康チェックカードにご記入いただき、玄関での提出にご協力いただいています。

今年度、感染予防に配慮しつつ、ボランティアの皆様と子どもたち・教職員が活動できたことに感謝しています。これからも、子どもたちが地域でのびのびと育っていくことを願って、CSの活動ができたらと思います。



洗馬っ子スクール (洗馬小学校コミュニティ・スクール)

本校では、これまで地域の方に支えていただきながら、様々な活動に取り組んできました。それだけに、令和2年度一学期、コロナ禍にあっても、これまで行ってきた活動を工夫して継続できないか検討を重ねました。しかし、休校の影響や感染拡大防止のため外部から人を招くということには難しさがあり、ほぼすべての部が外部講師の皆様で成り立っていたクラブ活動は、年間を通して中止という苦渋の決断をしました。

そんな中でも、地域の皆様から「できることは協力したい」という言葉をいただき、1学期は、校地内の環境整備を行っていただきました。そして、2学期からは、感染対策を工夫しながら、多くの活動を行うことができました。

校地内の環境整備 ～環境支援部～

コロナ禍でなかなか集まっての作業は難しいため、実施期間と分担を決め、その中で都合のよいときに実施していただくようにしました。自然豊かな反面、校地内の除草がたいへんな本校。休校で子どもたちの手を借りることもできない中、本当に助かりました。



読み聞かせ ～読み聞かせ支援部～

10月より、読み聞かせを始めました。活動再開に向け、対策について話し合いました。「児童は机のまま」「マスクやフェイスシールド着用」「健康チェックカードの使用」などの感染対策を講じました。その中で、遠くでも見えるように大型絵本を用意したり文章だけでも楽しめるよう選本したりと、様々な工夫をしていただきました。お陰で、子どもたちも十分に楽しめました。

大型絵本登場



フェイスシールド着用



座席は間隔をあけて

ピアノコンサート ～ピアノ支援部～

本校の特色の一つである86歳の修復ピアノを活用した「ピアノコンサート」ですが、1学期は残念ながら中止となりました。しかし、何とか開催したいという思いから、地域への参加募集を行わず、児童とその保護者、ピアノ支援部でピアニストの木内栄さんとヴァイオリニストの酒井和彦さんに参加者を限定して行いました。6年生の参加児童は「小学校最後の年だったけれど、自分の好きな曲を弾くことができてよかった」と感想を寄せました。6年生にとっては最後の発表。その場をつくることができて本当によかったです。



本物に触れる体験



小学校最後のコンサート



親子でアンサンブル



その他の活動紹介



広報「洗馬っ子スクール
だより」の編集



レタス栽培の指導



生活科遠足への付添



雛人形の展示や片付



登下校の見守り



金管バンドの指導



夏休み宿題応援隊



シイタケ栽培の指導

コロナ禍で中止を余儀なくされたり規模を縮小したりしましたが、多くの活動を行うことができました。保護者の方からも「コロナ禍の中、工夫して活動に取り組んでいる姿がある」という評価や本校のよさとして多くの方に「地域とのつながり」をあげていただきました。子どもたちとボランティアのみなさん双方の安全を守りながら、地域との繋がりが途絶えないよう、さらなる工夫に努めていきたいです。

塩尻西部中学校 コミュニティ・スクール

～地域から学び、地域へと関わる～

2020年、コロナ禍の中で取り組んだこと

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、さまざまな活動を実施することができませんでした。特に、地域の方々と関わるコミュニティ・スクール活動は、人が集まる活動が大きく制限されたため、地域との交流そのものが実施することが難しくなり、ほとんどの活動で中止や縮小を余儀なくされました。その中で、行うことができた部分について紹介します。

＜総合的な学習の時間「絆」での取り組み＞

1学年では例年、総合的な学習の時間「絆」での、地域の特産品であるぶどうについて学ぶ取り組みを「桔梗ヶ原ぶどう学」と名付け、その一環として、学校にあるぶどう園のぶどうを地域のぶどう農家の方から教えていただきながら育ててきました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域の方から直接教えていただくことができませんでした。かわりに学校職員が地域の方に教えていただき、その内容を生徒に伝える形でぶどう栽培に取り組みました。

〔かさかけの様子〕



残念ながら例年ほどの収穫を上げることはできませんでしたが、今年も育てたぶどうの一部をジャムに加工し、生徒がデザインしたラベルを貼って配布しました。昨年までは一部を文化祭で販売し、収益は義援金として市の社会福祉協議会に寄付していましたが、今年は販売に回すほどの数はできませんでした。

〔ジャムの瓶にラベルを貼る〕



<全校草取り作業での、地域ボランティアの方の協力>

文化祭前の全校草取り作業も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年のような地域のボランティアの皆さんと一緒にやる形では行いませんでした。事前にボランティアの皆さんに刈っていただいた草を、別日に生徒の活動時間を設けて集め、片づけました。

[事前の草刈り作業]



[草が乾いた頃に生徒が集め、片づける]



<地域と関わる活動>

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、生徒会を中心に取り組んできたさまざまな地域と関わる活動が、本年度は実施できませんでした。

[本年度実施できなかった、地域と関わる生徒会の取り組み]

○「洗馬児童館夏祭りボランティア訪問」

全校生徒からボランティアを募り、児童館の夏祭り運営に協力。各コーナー設営の手伝いや利用者のお子さんとの交流のほか、塩尻西部中独自のコーナーも設置して運営。令和元年度は68名の生徒が参加。

○「高齢者施設『なごみ』でのボランティア活動」

全校生徒からボランティアを募り、清掃活動などのボランティア活動の他、利用者の皆さんとの交流活動も行う。令和元年度は31名の生徒が参加。

○「宗賀地区文化祭でのボランティア活動」

3年生の生徒会役員がボランティアとして運営に参加し、物品販売や抹茶体験コーナーなどを手伝う。令和元年度は20名の生徒が参加。

感染症対策として、多くの方々と関わる活動、特に高齢者の皆さんと関わる活動は大きく制限されました。

そのような中でしたが、吹奏楽部が地域へ招かれて演奏をする機会もありました。

また、学校施設開放の「まなび庵」を利用されている「絵画教室」の皆さんの描いた絵を校内に飾らせていただく活動も、継続していただいています。

学習支援ボランティアの方による毎週水曜日の「放課後学習」の取り組みも、本年度も行うことができました。

まだまだ元のようにするには時間がかかると思いますが、「地域からの学び」と「地域との関わり」を軸とした「地域から学校へ」「学校から地域へ」の双方向の取り組みを継続できるよう、努力していきます。

[ふれあいセンター洗馬での吹奏楽部の演奏]



[絵画教室の皆さんの作品]



ならチャレ 2020!! 木曽檜川小学校コミュニティ・スクール ～ 輝く夢を携えて ～



夏休みに塩尻市生活環境課の支援のもと、学校横を流れる母沢で石の裏や水草の影などに住む生物を採集・観察を行いました。生物の多様性や水をきれいにすることの大切さを身近な川で遊ぶ楽しさを学びました。

ならチャレ 2020!!

ならチャレ
2020!!

画面を消して!!
この2週間を使って
できることに
チャレンジしてみましょう

わたし _____ は
_____ に
チャレンジします!!



コロナ禍でも明るく元気よく生活できるよう、何か一つのことに夢中になってチャレンジする心を全校で学んでいます。

～コロナ禍の中、今まで以上に大勢の地域の方々の知恵や愛情を受けて～

＜学習環境の整備＞



5月。臨時休校明けに子どもたちがすぐに田んぼの学習ができるように地域指導者の方が諸準備をすすめてくださいました。また学校支援ボランティアの方々が定期的にグランド整備をすすめてくださいました。

＜新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応＞



本校は給食時に漆のお盆を利用しています。お盆の消毒で困っていると地域ボランティアの方々が子どもたちに手作りナフキンを心をこめて作ってくださいました。また校舎の消毒作業のお願いを地区回覧を通してよびかけたところ、総勢25名の方々が37日間支援をしてくださいました。

＜通常の学校生活を取り戻し・・・＞



学校生活がもどる中、休止していた読書ボランティアを再開したり、音楽会の中でマリンバ奏者関澤真由美さんのミニコンサートを開いたりすることができました。子どもたちも大喜びでした。

～地域に学び、地域を知り、誇りと愛着を持ち～

＜通常の学校生活を取り戻して＞



＜地域探検豊川：1、2年合同＞



＜社会科地域探検：3年＞



＜羽淵キウリ栽培：4年＞



＜木曽漆器伝統工芸士の漆塗体験学習：3～5年＞



＜保育園交流：5年＞

新型コロナウイルス感染防止の対策をしながら、外部講師や交流相手と連絡をとりあい、各学年の特色ある教育活動を展開することができました。臨時休業明けはうつむき加減だった子どもたちが次第にもとの明るさを取り戻し、自分の課題に向かって仲間と楽しく追究する姿がみられてきました。

深まり ～地域のために、自分たちができることを～ 地域貢献活動



本年度は6月の漆器祭が開催できずに、6年生の子どものお店を開くことができませんでした。そこで、木曽漆器の素晴らしさや木曽漆器伝統工芸士の方々と授業を多くの方々に知ってもらうようと、10月には銀座NAGANO 様やえんぱーくで作品を展示していただき、好評を博しました。

11月の参観授業後に体育館で、6年生が「子どもの店」のために制作した漆器商品の受け渡しの販売がありました。大勢の方々が買いにきてくださり、子どもたちはとてもうれしそうでした。

事前に予約していただいたお礼のメッセージを添えて、お箸を一膳プレゼントしました。木曽漆器工芸士の方々に教えていただきながら心をこめて作った商品をようやく手渡すことができ、感謝の気持ちでいっぱいの子どもたちでした。

<成果と課題>

- 本年度は新型コロナウイルスへの対応として、「子どもの店」「ならニコカフェ」など本校の特色ある教育活動や運動会・音楽会など諸行事を精選・縮小をしたり、中止にしたりしてきたが、その中でも子どもたちが明るく元気に遊べるよう「ならチャレ 2020」や「ならゼミ 2020」を行い、難しいことにチャレンジする意欲を育ててきた。
- 学校で困っていることをPTA や学校運営協議会・学校支援コーディネーター等を通して、積極的に地域に発信したことで大勢の方々に参加していただくことができた。地域ボランティアの方々の学校を積極的に支援しようという機運が高まってきている。それだけに地域のボランティアの方々に任せきりになるのではなく、職員や保護者がボランティアの方々と協働していく意識を高めたり、感謝の気持ちをより伝えていったりすることが大事である。
- 保護者から「先生方がいろいろアイディアを出してくださり、子どもたちにとって意欲がわく活動を考えてくださっていること、ありがたく思います。今年はコロナ禍という状況の中でしたが、そこで何もしないとするのではなく、できることを見つけ出し、学校生活が楽しいと思える日々を作っていたいただきありがたかったです」と意見を寄せていただいた。

「コロナ禍でも地域と連携したふるさとの学びは止まらない！」

～塩尻市立櫛川中学校～

【これまでの経緯】

平成30年度 生徒の希望をもとにした地域講師による講座型ふるさと学習、「ならかわ大学」が本格的にスタート
令和 元年度 地域講師による講座型ふるさと学習と学年総合を併用したふるさと学習「ならかわ大学」へ
令和 2年度 ICT 等も活用した学年総合を軸にしたふるさと学習「ならかわ大学」へ

義務教育学校開校に向けて保小中との連携を深める。

学校運営協議会や地域教育協議会のほかに義務教育学校開校準備委員会で熟議を踏まえた実践

令和4年度開校の義務教育学校を見据えた地域の方々との協働による取組み

願う子どもの姿・伸ばしたい力

櫛川から未来にはばたく

【 櫛川の学びを支える3つのK 】

感じる

考える

語り合う

櫛川で伸ばしたい資質・能力

「夢を志し、リーダーとしての資質・能力」

- ①豊かな感性：切磋琢磨し多様性を包み込む豊かな心
- ②探究力：自ら問いをもち対話的に探究する力
- ③想像力：協働し、未来の地域を創造しようとする力

【 全校生徒 共通の問い 】

櫛川地区の活性化のために何ができるだろうか。

【 全校生徒 共通の想い 】

コロナ禍でも学びは止めない。地域の方とともにいまできることを行おう。

「感じる」

切磋琢磨し、多様性を包み込む豊かな心



1年 ZOOM 学活



2年 廃村地区の話を聞く会



全校 性教育キャラバン



全校 櫛川中学校笑顔を守る宣言



3年 スポーツデイ準備



全校 赤い羽根募金

「考える」

自ら問いをもち、対話的に探究する力



1年 留学生とのレク



3年 修学旅行代替花火



生徒会 三役校長先生



1, 2年 地域探検



全校 総合発表会 太鼓演舞



2年 取材した記者の話を聞く

「語り合う」

協働し、未来の地域を創造しようとする力



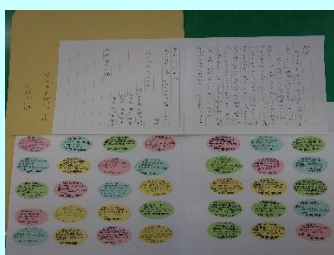
2年 職場体験代替、職場調査



全校 ホンテイの方と創る読書旬間



全校 夢いきいき講演会 武田先生と



全校 消毒除菌スタッフの方々へのお礼状



3年 榑川紹介動画制作



1年 観光客おもてなし打合せ

成果

- ・ 地域の方の考え方や生き方に触れ、地域の良さに浸り、多角的な立場からあたたかな視点で考える力が伸びてきました。
- ・ コロナ禍であっても地域の方々や他団体の方々の力を借りながら、学びを止めることなく自分たちができることを精一杯行うことで自信を深めました。
- ・ 多様な方々の考えや生き方に触れ、今の自分を振り返り自己肯定感を高め地域への想いを深めながら、自分の将来へのビジョンを明確にすることができました。

新しい学校づくり 「檜川地区小中合同研修 伏木久始先生講演」



＜ 伏木先生講演 R2.10.14＞



＜ 伏木先生講演 R2.10.14＞



＜信州大学院生チャレンジ学習参観 R2.12.10＞



＜信州大学院生ふるさと学習参観 R2.12.10＞



＜木曾漆器伝統工芸士と信州大学院生との懇談 R2.12.10＞



＜伏木先生講演 R2.12.10＞

令和4年度義務教育学校開校に向けて信州大学学術研究院教育系教授伏木久始先生をお招きし、小学生と中学生の教科学習や総合的な学習の時間等授業参観を通して小中合同研修を行い、学びを深めています。

講演の中で、一人学習の時間を大切にする事、ふるさと学習では地域を足場とした学習を展開し、工芸士の方々の思いやこだわりなど本物に触れる中で子どもたちの探究心が生まれてくること、そして、個に即した学びを記録する振り返りシートが有効であることや、ふるさと学習でつけた力を明らかにして「こんな力がつくんだ」「こんなふうに探究したねと言える子どもを育てる」ことを教えていただきました。

また今年度4年生で取り組んだ自由進度学習について、成功させている学校の具体例について教えていただくことができ、小中学校職員が自由進度学習への確かなイメージを膨らませることができました。

来年度も引き続きご指導をお願いし、小中学校職員の連携をよりいっそう進めていきます。

塩尻市コミスク 檜川地区〈木曽檜川小・檜川中〉

〈檜川地区の学校・保護者・地域の方々が熟議する〉



〈学校運営協議会/学校職員〉

〈義務教育学校開校(準備)委員会〉

〈子どもワークショップ〉

●ふるさとを思い、学び語り合う

子どもワークショップ



小学生と中学生合同の討議



全体会の様子



高校生も参加



2回目はZOOMで

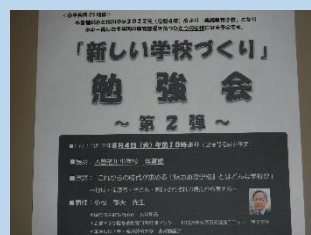
義務教育学校開校(準備)委員会



義務教育学校開校委員会



CS 研修会 京都大学特任
教授・小松郁夫先生の講演



義務教育学校開校準備
委員会での熟議



ZOOMでの小中合同教科会



合同係会もZOOMで



学校運営協議会での熟議

学校運営協議会/学校職員

地域とともに 「たのめの里」で生きる 両小野学園コミュニティ・スクール



辰野町
小野保育園

塩尻市
北小野保育園

辰野町塩尻市小学校組合立
両小野小学校

塩尻市辰野町中学校組合立
両小野中学校

両小野学園の願う園児・児童・生徒のすがた
ふるさと「たのめの里」を知り、共に愛し、「たのめの里」に貢献できる子ども
～響く「あいさつ」・響き合う「歌声」・深まる「学び合い」～

RYOONO PR CHARACTER
両小野PRキャラクター

うとう



ボランティア

小野保育園

北小野保育園

保小のつながり

両小野小学校

小中のつながり

両小野中学校

保中のつながり 保小中のつながり

ボランティア

登下校の見守りボランティア、校内の消毒ボランティア
マラソン大会見守り、
小学校「たのめ科」の学習へのボランティア、
中学校「アントレプレナー学習」へのかかわり 等

保小中のつながり
学園音楽会

保小のつながり

小1・小3との交流

小中のつながり

小6の中学校登校

保中のつながり

職場体験
保育園実習
保育園交流

《今年度の成果と課題》

○コロナ禍で活動が縮小

地域の皆さんが参加できず・・・学園音楽会、アントレプレナー学習発表会

○小学校「ボランティアルームの地域開放」へ動き出す

○消毒ボランティア

既存のボランティア組織 と 地域の皆さんの力

○行動する運営協会の第一歩

小野保育園

<クリスマス会>

サンタさんからすてきなプレゼントをもらったよ



北小野保育園

<両小野小3年生との交流>

リコーダーの発表
すてきな発表！



<両小野小1年生との交流>

校内を案内
手をつなぐと安心



小学校は楽しそう！



両小野小学校



地域教育協議会のみなさんをはじめ、地域のみなさんが、毎日校舎内の消毒に来てくださいました。安心して学校生活を送ることができました。

〈ボランティアさんによる消毒作業〉

11/17に行われたマラソン大会では、大勢のボランティアのみなさんに安全を見守っていただきました。応援もしていただき、力をもらいました。



〈マラソン大会の見守り〉

〈ボランティアさん紹介式〉



〈朝の登校見守り〉



コロナ禍ではありますが、ボランティアのみなさんは、いつも身近にいてくださいます。紹介式で顔とお名前をみんなで覚えしました。

本年度はコロナ禍ではありますが、12月現在、のべ44のボランティアのみなさんによる支援事業が行われ、のべ142名のボランティアのみなさんに支援していただきました。これら支援事業とは別に、校舎内の消毒作業や登下校の見守りに大勢のボランティアのみなさんがあたってくださいました。



〈田植え〉



〈さつまいもの苗植え〉



〈かかし立て〉



〈さつまいもの調理〉

ボランティアさんと
一緒



〈運動会 うとうくん登場〉



〈稲刈り〉



〈秋探し〉



〈大豆 脱穀〉



〈たのめの里めぐり〉



〈スイートポテトづくり〉

両小野中学校

<夢プロジェクト>

夢プロジェクト第12号 「辰野町中学生議会」

(令和2年8月26日水曜日開催)

地域のために願いを持ち始めたこの夢プロジェクト。今回が今年度初めてとなる夢プロジェクトとなりました。『地域のためになることは何か』を全校みんなで考え、意見を出し合い、辰野町中学生議会において代表して生徒会三校が提案をしました。両小野に住む地域の方々へ安全に快適に暮らすための良い提案ができました。



夢プロジェクト第13号 「災害募金活動」

(令和2年9月17日木曜日開催、義援金寄付11月11日)



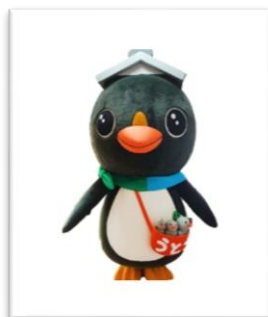
夢プロジェクト第14号 「記念樹」

(令和2年10月22日木曜日開催)

地元の山を紅葉でいっぱいにして多くの人たちに見に来てもらいたいという願いを持ち、始まった夢プロジェクト。今年は3年生の卒業記念樹として良い活動ができました。



<ゆるキャラグランプリ>



最終結果 **37位**
9814P

全国の人に
両小野を知ってもらいたい!!

コロナ禍でのポスター・チラシの配布依頼

両小野地区へ全戸配布
地域の店や公共施設に掲示依頼
両小野小へ依頼
塩尻市内、辰野町内の中学校へ
生徒会を通じて全生徒への配布依頼
両小野学園運営委員による配布

塩尻市・辰野町PRキャラクター「うとう」くんが
ゆるキャラグランプリに
また出場します!!

うとうくんは、両小野地区の商店「うとう」くんが、今年度によって選ばれた塩尻市・辰野町PRキャラクターのうとうです。水の青や黄の着た可愛らしい色合いのうとうくんは、三つの子役のうとうです。塩尻市・辰野町を全国に知ってもらえるように、PR活動も頑張っています。

1日1回投票よろしくお願いします!!

グランプリ投票方法 投票期間7月1日～9月25日

PC スマホ 投票方法
投票方法
投票方法
投票方法

QRコード
URL: <https://www.yurupri.jp/sp/vote/method.php>
両小野中学校生徒会 0266-46-2957

～多くの皆様のご協力を
いただき、感謝です～

<アントレプレナー学習>

○地域対策（地域美化・空き家）
空き家対策について話をきく



見学



古田晁記念館の清掃



○地域PR（キャラクター・地域行事）
地域紹介について意見交換 コロナ予防啓発ポスター



交通安全
看板



○地域の文化（両小野の衣食住）
小野酒造さんへ取材 地域食材を使ったおやきの試作



手作りマスクの寄贈



○地域の自然（霧訪山・紅葉山など）
ベンチ製作 ベンチの設置



HPの作成



<小6中学校登校>11/10~13

一緒に清掃



交流



終了式



塩尻中学校区 〈塩尻中・塩尻東小・塩尻西小〉

■地域と学校とで協働して育てたい子どもの姿

＊平成29年度第1回学校運営協議会のグループ・ワークのまとめ

〈塩尻東小〉

- 自他を大切にでき、思いやり溢れる子ども
〈自尊感情と愛他心の育成〉
- 心身ともに健康で、元気で意欲的な子ども
〈前向きな生き方・人間関係構築力の育成〉
- 主体的に学び、チャレンジする子ども
〈課題発見力・解決力や行動する力の育成〉



〈塩尻西小〉

- 自他を大切にでき、思いやり溢れる子ども
〈自尊感情と愛他心の育成〉
- 他とのつながりを大切にしながら自分を的確・適切に表現できる子ども
〈人間関係構築力の育成・人権感覚の育成〉
- あきらめず、前向きに生きられる子ども
〈成功体験・チャレンジ精神の育成〉



〈塩尻中〉

- 心身ともに健やかでたくましい子ども
〈自尊感情の育成、タフに生き抜く力、社会力・人間力の育成〉
- 夢を持ち、夢の実現に向け努力する子ども
〈自ら学ぶ力・学び続ける力の育成、キャリア教育推進〉
- 人とのつながりを大切に、様々な人と協働して活動ができる子ども
〈チームワーク、協調性、協働性、社会力の育成〉
- 自ら考え、適切に判断し、行動できる・語れる子ども
〈課題発見力、課題解決力、創造力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、自主性、自立心、自律心の育成〉



＊平成29年度第2回学校運営協議会〈中学校区内合同学校運営協議会〉のグループ・ワークのまとめ

【塩尻中学校区において小中一貫した9年間で育てたい子どもの姿〈3本柱〉】

- 多様な人と協働しながら主体的に活動できる子どもの育成
- 心身ともに健やかで、自己実現に向け学び続ける子どもの育成
- ふるさと（地域）の過去と現在を学び、知り、誇りと愛着をもち、地域の未来を拓き・語れる子どもの育成

広陵中学校区 〈広陵中・桔梗小・広丘小〉

■地域と学校とで協働して育てたい子どもの姿

＊平成29年度第1回学校運営協議会のグループ・ワークのまとめ

〈桔梗小〉

- 心身ともに健やかで明るい子ども
〈自尊感情の育成、健康的に生きる力の育成〉
- 笑顔があふれ、心が優しい子ども
〈前向きな生き方・人間関係構築力の育成〉
- 憧れを持ち、夢に向かう子ども
〈より高い生き方を求め行動する力の育成〉



〈広丘小〉

- 挨拶等がしっかりでき、人とのつながりを大事にする子ども
〈人間関係構築力の育成〉
- よく学び、体を鍛え、夢に向かい進む子ども
〈学力向上・体力向上・キャリア教育推進〉
- 相手の気持ちが分かり、協調して活動ができる子ども
〈愛他心・協調性・チームワーク〉



〈広陵中〉

- 心身ともに健やかでたくましい子ども
〈自尊感情の育成、タフに生き抜く力、社会力・人間力の育成〉
- 夢を持ち、夢の実現に向け努力する子ども
〈自ら学ぶ力・学び続ける力の育成、キャリア教育推進〉
- 人とのつながりを大切に、様々な人と協働して活動ができる子ども
〈チームワーク、協調性、協働性、社会力の育成〉
- 自ら考え、適切に判断し、行動できる・語れる子ども
〈課題発見力、課題解決力、創造力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、自主性、自立心、自律心の育成〉



＊平成29年度第2回学校運営協議会〈中学校区内合同学校運営協議会〉のグループ・ワークのまとめ

【広陵中学校区において小中一貫した9年間で育てたい子どもの姿〈3本柱〉】

- 多様な人と協働して活動できる子どもの育成
- 様々な課題を解決しながら、自己実現に向けて学び続ける子どもの育成
- ふるさと（地域）の過去と現在を学び、知り、誇りと愛着をもち、地域の未来を拓き・語れる子どもの育成

丘中学校区 〈丘中・片丘小・吉田小・広丘小〉

■地域と学校とで協働して育てたい子どもの姿

＊平成29年度第1回学校運営協議会のグループ・ワークのまとめ〈広丘小は広陵中学校区を参照〉

〈片丘小〉

- 心身ともに健やかで明るい子ども
〈自尊感情の育成、健康的に生きる力の育成〉
- 挨拶等がしっかりでき、人とのつながりを大切にする子ども〈人間関係構築力の育成〉
- 主体的に学びに向かう子ども
〈課題発見・解決力、自学力の育成〉



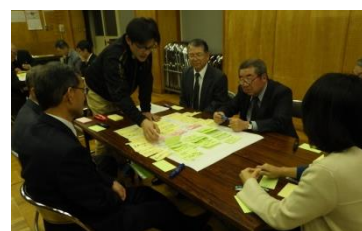
〈吉田小〉

- 社会の基本的ルールやモラルが守れ、相手を思いやれる子ども
〈社会力・人間力の育成〉
- 自分の将来を描き、それに向かい動く子ども
〈学力向上・体力向上・キャリア教育推進〉
- 自他の気持ちを理解し、協調して活動ができる子ども
〈自尊感情・愛他心・協調性の育成〉



〈丘中〉

- 心身ともに健やかでたくましい子ども
〈自尊感情の育成、自他を思いやる心、タフに生き抜く力、社会力・人間力の育成〉
- 夢を持ち、夢の実現に向け努力する子ども
〈自ら学ぶ力・学び続ける力の育成、キャリア教育推進〉
- 人とのつながりを大切にし、様々な人と協働して活動ができる子ども〈チームワーク、協調性、協働性、社会力の育成〉
- 自ら考え、適切に判断し、行動できる・語れる子ども
〈課題発見力、課題解決力、創造力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、自主性、自立心、自律心の育成〉



＊平成29年度第2回学校運営協議会〈中学校区内合同学校運営協議会〉のグループ・ワークのまとめ

【丘中学校区において小中一貫した9年間で育てたい子どもの姿〈3本柱〉】

- 心身ともに健やかで、多様な人と協働して活動する子どもの育成
- 自己実現に向け主体的に学び続ける子どもの育成
- ふるさと（地域）の過去と現在を学び、知り、誇りと愛着をもち、地域の未来を拓き・語れる子どもの育成

塩尻西部中学校区 〈塩尻西部中・宗賀小・洗馬小〉

■地域と学校とで協働して育てたい子どもの姿

＊平成29年度第1回学校運営協議会のグループ・ワークのまとめ

〈宗賀小〉

- 心身ともに健やかで元気な子ども
〈自尊感情の育成、健康的に生きる力の育成〉
- 思いやりにあふれ、助け合える子ども
〈愛他心・協調性・人間関係構築力の育成〉
- 主体的・自主的に学べる子ども
〈課題発見・解決力の育成、自学力の育成〉



〈洗馬小〉

- 挨拶等がしっかりでき、人とのつながりを大切にする子ども 〈自尊感情や愛他心の育成、人権感覚の育成、人間関係構築力の育成〉
- 主体的・自主的に学び、夢に向かい進む子ども
〈課題発見・解決力の育成、自学力の育成、キャリア教育の充実〉
- 自分の考えを的確に適切に伝えながら、他と協調して活動ができる子ども 〈コミュニケーション力、愛他心、協調性、チームワーク〉



〈塩尻西部中〉

- 心身ともに健やかでたくましい子ども 〈自尊感情の育成、タフに生き抜く力、社会力・人間力の育成〉
- 夢を持ち、夢の実現に向け努力する子ども
〈自ら学ぶ力・学び続ける力の育成、キャリア教育推進〉
- 人とのつながりを大切にし、様々な人と協働して活動ができる子ども 〈チームワーク、協調性、協働性、社会力の育成〉
- 自ら考え、適切に判断し、行動できる・語れる子ども
〈課題発見力、課題解決力、創造力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、自主性、自立心、自律心の育成〉



＊平成29年度第2回学校運営協議会〈中学校区内合同学校運営協議会〉のグループ・ワークのまとめ

【塩尻西部中学校区において小中一貫した9年間で育てたい子どもの姿〈3本柱〉】

- 心身ともに健やかで、多様な人と協働して活動する子どもの育成
- 自己実現に向け主体的に学び続ける子どもの育成
- ふるさと（地域）の過去と現在を学び、知り、誇りと愛着をもち、地域の未来を拓き・語れる子どもの育成

檜川中学校区 〈檜川中・木曽檜川小〉

■地域と学校とで協働して育てたい子どもの姿

＊平成29年度第2回学校運営協議会のグループ・ワーク2のまとめ

【檜川中学校区において小中一貫した9年間で育てたい子どもの姿〈3本柱〉】

- 温かい人間関係を築くことができる子どもの育成
- 心身ともにたくましく、自立し、未来を拓く子どもの育成
- ふるさと（地域）の過去と現在を学び、知り、誇りと愛着をもち、地域の未来を拓き・語れる子どもの育成

● 温かい人間関係を築ける子



小学校の運動会のサポートと交流

自分たちで作った地元のゆるキャラ「ならちやん」の着ぐるみを着て、小学校の運動会を盛り上げました。また、3年生がリレー種目に参加し、交流を深めました。

朝生の里との交流

全校で老人福祉施設と交流をしています。




体験入学生との交流

移住を呼びかけるチラシ配布活動により、茨城県から体験入学生が来てくれ、交流を深めました。

袋井市との交流

ど真ん中交流実行委員会の企画で、静岡県袋井市と交流を毎年しています。今年は、袋井市を2泊3日で訪問してきました。



● 心身ともに逞しく自立し、未来を切り拓ける子



ボランティアの方々に支えられる行事

ボランティアの皆さんの環境整備作業のおかげで、安全にMurasawa杯（全校駅伝大会）ができました。



地域の力で迎えられた運動会

何度もグラウンド整備をして下さるボランティアの皆さんののおかげで、安心・安全な運動会ができました。

● ふるさとを学び・知り、誇りと愛情を持ち、地域の未来を拓き、語れる子



ふるさと学習「ならかわ大学」

「ならかわ大学活動報告会」（参観日）



登山ボランティア



学年総合

さまざまな教育活動を地域の方々にご支援いただき、生徒たちはふるさとにある「いいもの」を当たり前としてではなく、価値ある「良いもの」として実感を伴って感得できました。

ふるさにとしっかり向き合い自分たちに何ができるか考え、ふるさとに貢献できる学びを実践し、その一例を紹介させていただきます。



地域の特産品 羽淵キウリづくり

正月飾り しめ縄づくり体験

職人さんから学ぶ ～木彫指導～

ふるさと学習 ～漆塗り体験～

ふともの店

ここには挙げきれないほどのご支援をいただきながら、子どもたちは地域を知り、学ぶことができました。

ご支援に対する感謝を示すために、自分たちが地域のためにできる事を考えて取り組んでもきました。詳しくは、この後の木曽檜川小学校のページをご覧ください。

■地域と学校とで協働して育てたい子どもの姿

【両小野中学校区〈両小野学園〉において保小中一貫した12年間で育てたい子どもの姿】
ふるさと「たのめの里」を知り、共に愛し、「たのめの里」に貢献できる子ども
～輝く「あいさつ」・響き合う「歌声」・深まる学び～

＊平成29年度第2回学校運営協議会のまとめ

〈両小野小(辰野町塩尻市小学校組合立)〉

「たのめの里に生き、たのめの里の未来を切り拓く子どもの育成」

- 「たのめ科」の充実
 - ・地域を知り、地域の方から伝統を継承し学び、地域を愛する子の育成
- 保小中一貫のために
 - ・「保小の一貫」：校内巡り、プール交流、給食の試食、児童会祭り招待
 - ・「小中一貫」：6年生の中学校登校〈1ヶ月間〉、地域美化活動
 - ・「保小中一貫」：学園音楽祭



〈両小野中(塩尻市辰野町中学校組合立)〉

「たのめの里に生き、たのめの里の未来を切り拓く子どもの育成」

- アントレプレナー学習、ブリリアント学習を通し
 - ＊地域を知り、地域の活性化について考え、人々と関わることで故郷を大切に思い、さらに好きになる。
- 「夢プロジェクト生徒会」
 - ＊アントレプレナー学習で見いだされた課題を、全校の活動にしていける、地域貢献型の両小野中モデルの生徒会を構想していく。



〈北小野保育園(塩尻市立)〉

- よりよい環境のもとで、のびのび過ごし、発達に応じた活動の積み重ねを行える保育園
- 子どもの個性や特性を大切に、もっている力を十分に発揮し生活できるよう一人ひとりに応じた支援ができる保育園
- たのめの里の歴史ある郷土の文化を大切に、「太鼓活動」や「地域ボランティアの保育園参加」を通して、地域を知り地域を愛する心を育てる保育園



〈小野保育園(辰野町立)〉

- 安心して預けられる保育園
- 一人ひとりの子どもの適切な援助ができる保育園
- 保護者と共に子どもの成長を支援する保育園
- 地域ボランティアの協力のもと、地域を知り、地域を愛する心豊かな子どもの育成



両小野学園〈北小野保育園・小野保育園・両小野小・両小野中〉

田中 保治

今年度から初めてお世話になることになりました両小野学園を担当している学校支援コーディネーターの田中保治です。

学園と言っても、小学校は「両小野小学校」、中学校は「両小野中学校」と呼ばれ、小学校は辰野町塩尻市小学校組合立で中学校は塩尻市辰野町中学校組合立のそれぞれ 2 つの教育委員会を持つ、とても不思議な学校です。

但し、保育園は町立の「小野保育園」と市立の「北小野保育園」のそれぞれです。

施設分離型の小中一貫教育推進校で、小中の建物が 1 km ほど離れているために、先生方の合同職員会議や合同での準備などでは先生方の負担が大きいようです。



【上の写真：小中合同音楽会】例年なら、中学のお兄さんお姉さん達や保育園のお友達が参加して、体育館いっぱいの音楽会になります。

地域としては、行政が違うことにより「広報紙」が違い、又身近な情報であるローカル新聞も違うため、情報を共有することが困難です。

歴史的建造物では、北小野地区の小野神社と小野地区の弥彦神社が同じ敷地の中に並んで建っています。それぞれの歴史認識も違ってきます。

塩尻市北小野と辰野町小野を併せた総称「たのめの里」は、いくつかの困難を抱えていますが、教育に対する思いは、先人達から大切に受け継がれています。



上の右側の写真は、両小野中学校に生えている「イチョウの木」です。たまたま近くの保育園児達が遊びに来たので撮りました。もう何年かしたら、この子達もここで学ぶようになるかと思います。

その時はどんな世界が待っているのでしょうか？

保護者・PTAをはじめ、来賓や日頃お世話になっているボランティアの人達が出席出来ない中でも、学園は幼児から始まって中学校の生徒達までが、今出来ることを一生懸命大人達に見せてくれた姿がここにはあるような気がします。

自分たちで考えた修学旅行、最終日は、塩尻駅前と
駅構内での募金活動



うとう君の応援もあり、張り切って頑張った
小野保育園の運動会



お祭りに見立てたにぎやかだった
北小野保育園の運動会



保護者や来賓者にも人数制限のきびしい中、
種目なども工夫した両小野小学校の運動会



地域とともに

上本 好美 <塩尻中学校・塩尻東小学校・塩尻西小学校>

コミュニティ・スクールとはなにか。

コーディネーターとしてなにができるのか。

昨年度の2月、地域の方々、学校の先生方に教えていただきながら、右も左もわからないままにコーディネーターをスタートさせました。

そんな中、3月から新型コロナウイルスの感染が拡大しはじめ、新学期そうそうに学校は一斉休校。4月に予定されていた第1回学校運営協議会は中止となりました。

「今年はコミュニティ・スクール活動ができないのではないか」と誰しもが思ったと思います。

でも地域の方々は違いました。

「学校のために、我々ができることがあるのではないのか」と、コロナ禍であるにも関わらず、工夫と情熱でコミュニティ・スクール活動をしてくださいました！

「できない」にしない。「工夫してやる」という考えのもと、例年どおりとはいえないけれども、「子どもたちのために」を合言葉に、規模の縮小や密を避けながら、様々な活動をしていただきました。

学校とは地域とともにあるのだと強く感じる事ができた1年間でした。

コミュニティ・スクール活動にご協力いただきました地域のすべての皆様、ありがとうございました。

<塩尻西小学校>



消毒・清掃ボランティア



大門プロジェクト

<塩尻中学校>地域ふれあい講座



生け花



トールペイント

<塩尻東小学校>



阿禮太鼓クラブ神社で演奏



大晦日メッセージ行灯

<塩尻中学校第1回学校運営協議会>



この1年間、私自身とても勉強になりました。ご指導くださった地域の方々、先生方、生徒の皆さん本当にありがとうございました。

2年間の学校支援コーディネーターから

塩尻西部中学校区 塩原章一

2年間務めさせて頂きました。久しぶりの学校生活でもあり、活動を振り返ってみると、あっという間の2年間でした。3校の担当ということで、会議等の時期が重なったときには忙しい思いをしたこともありました。先生方や地区の方々に支えられ、活動させて頂きましたが、少しでも子ども達や地域のためになっていれば幸いです。

コロナの心配もありますが、さらに充実した活動ができるよう期待しています。

<塩尻西部中学校>

大変落ち着いた中学校であり、ぶどう栽培などの地域の特色を生かしている。生徒数が減少しており、クラス数も減少し始めている。私の母校でもあるが、当時は学年5クラスあった。



コーディネーターにならなければ、おそらく母校に勤務するなんて機会はなかったと思うので、人生の中でも貴重な2年間になったと思っている。今年度はエアコンの工事もしていて、あとはトイレが改善されればもっと良くなるなどといちOBとしては期待している。

<宗賀小学校>

地域の方がどنگりプロジェクトを中心に、しっかりバックアップしていて、活動がしっかりしている。今年は学校の活動を助け、一段と幅の広い様子を展開した。話が盛り上がって大人同士の楽しみも満たしてくれている。プール清掃を手伝っている様子が新聞に掲載され、なんとタイムリーなことかと思わず拍手をしてみました。

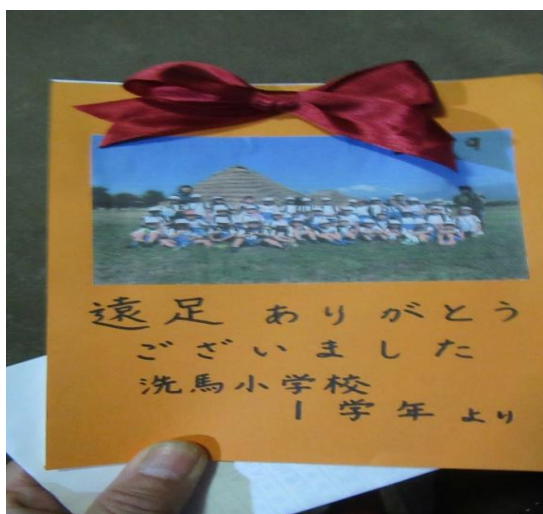


先生たちのお手伝いというスタンスで今年の1年間はとても意味深い年になったのではと思っています。

大人の仲間達が楽しく活動している様子は「これが大人の活動だ」と言わんばかりの姿を見せてくれている。楽しそうに活動している姿は何ともいえない。

また、昔、勤務していた頃を思い出しながら、学習支援などのために教室へ行くと、当時を思い出してなつかしさが高まり、思わずあちこちと歩き回ってしまいました。もっと学習面等でもお手伝いできればよかったかなと思ってしまいました。ちなみに、去年は少しだけ学習支援にも参加していたので。

<洗馬小学校>



P T Aや地域の方々がしっかりと体制を組んでおり、支え合う体制ができている。ピアノコンサートなど、歴史を生かした活動が盛んである。私の母校でもあり、私の子どもも卒業している。なんと言っても支援部の人たちとの距離が近いことが一番にあげられる。

また、支援部がきちんと位置づいており、お便りの発行や互いに協力しての支援活動もあり、各部に分かれての体制がしっかりしている。



一緒に学ばせていただきました m(_ _)m

三村千家子〈丘中学校・片丘小学校・吉田小学校〉

本年度から丘中学校区の学校支援コーディネーターをさせていただくことになったものの・・・昨年度とは違うスタートでした。

学校も通常通りではなく・・・

何をどうしたらいいのか・・・

しかし、何がどうなっているのか、どうしていくのがベストなのかを見つめ、考える時間をいただけたのではないかと思います。

担当校の丘中学校は、本年度創立70周年でした。

大々的な周年事業はしませんでした。3年生がクラス毎テーマを決めて先輩方から話を聴きました。私も生徒達と一緒に話を聴かせていただきました。

“どこに行きたいのか、今どこにいるのか、どうやってそこへ行くのか”

“今、自分がすべきこと（目の前のこと）を一生懸命やる”

“希望をもつこと”

“誰が見ても不快感を感じないように”

等、先輩方からお言葉をいただき、勉強になりました。



ZOOMで繋がりお話を伺いました



昇降口に飾ってある絵を描かれた上條喜美子さんもお来校くださり、当時の様子をお話して下さると共にワークショップをしてくださいました。



片丘小学校では、地域の皆さん・先生方と一緒にプール掃除をさせていただき、地域の方からおもてなしをいただきました。



そばがき
よせ
お漬物
煮物
etc



吉田小学校では、6年生の地域学習に同行させていただきました。

小学校からえびの子水苑まで子ども達と一緒に歩き、交通量・スピードを出している車が多いことに改めて気付かされました。

地域の皆さんが登下校の見守りをしてくださっていることはありがたいことだなあとつくづく感じました。

コロナ禍の1年ではありましたが、地域の皆さんと繋がることができ、勉強にもなり色々な体験をさせていただき大変ありがたく思っております。感謝の気持ちでいっぱいです。

あきらめない大切さ

唐澤 理恵（広陵中学校・桔梗小学校・広丘小学校）

昨年度の2学期途中から、校区のコーディネーターに着任しました。

何ができるか・・迷いながらも、私自身も地域の住人であり、また母親として、子ども達のために何か出来れば・・そんな思いで引き受けさせていただきました。

関わってきた中で、私が見てきた広陵中学校区コミュニティ・スクールの姿をお伝えしたいと思います。

・広陵中学校

広陵中学校では、これまでに地域のお祭に生徒達がボランティアで運営に参加したり、カリヨンタイム・陵風タイムといった、地域の方や専門の方に講師として来ていただき、生徒たちが触れながら学ぶ時間を設けていたりしました。ですが、今年度は地域の方との触れ合いが難しい状況になり、学校からは呼びかけが出来ない状況になりました。

それでも、地域の方は絆の庭などの環境整備や畑の開墾・ぶどう栽培・えごま栽培など、今まで行ってきたことの中で、できる事を継続して活動してくださいました。一緒にできなくても続ける姿・できる事を探し行動する姿を、地域の方がその背中で魅せてくれました。

その思いは、子ども達に伝えていきたい、続けていればまた必ず共に活動ができるから！という思いがあったと思います。活動できない中でも何が出来るか、可能か不可能かを検討するのは、楽しくもあり苦しくもありましたが、その過程を経ることで、今までにはなかった絆が生まれたと思います。



記念樹の整備後、校長先生と



えごまの芽摘作業と
収穫後、生徒達との交流会



ボランティアさんによる
陵風祭アートの額作成



学校運営協議会・青少年育成協議会の方による校
区の下校見守り

・ 広丘小学校



読書ボランティア勉強会

広丘小学校でも、登下校の見守りは今まで以上に地域の方・保護者の方が共に見守りをしてくださいました。臨時休業中には学校運営協議会委員の働きかけで、専門業者の方に来ていただき、校内にある鬼ぐるみの木を伐採してもらいました。地域公民館での宿題お助け隊なども例年通り行いました。今年の学習支援は昨年までと同じようにはできませんでしたが、読書ボランティアの皆さんも、自粛明けから毎月1回の勉強会を行い、いつでも読み聞かせが再開出来るように・・・と、準備をしてくれていました。見えないところで子ども達の事を思い、諦めず活動してくださる・・・その気持ちを思うと、早く当たり前の日常が戻ってほしいと願うばかりでしたが、様々な緊張感のなかで、各地域でできる事を続けながら、子ども達を守り・支えてくれていました。



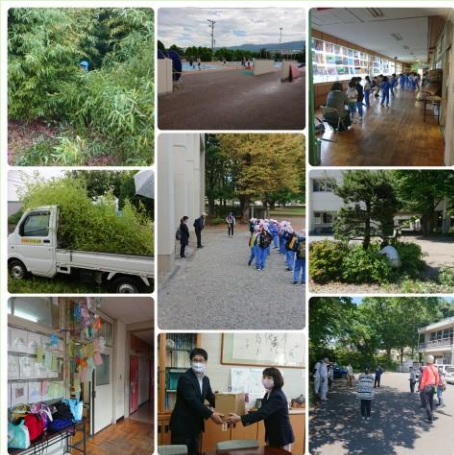
読書ボランティア勉強会

・ 桔梗小学校

桔梗小学校でも、春休み中の新学期準備、全国一斉自粛明けの分散登校から、PTA の皆さん、ボランティアさん、市警察ボランティアさん、青少年育成協議会さんや安協の方、民生委員さんによる登下校の見守り、学校再開時から毎日絶えずボランティアさん・民生児童委員の皆さんによる校内の環境整備や形式を変えての学習支援や読み聞かせ、キッズお仕事チャレンジの開催と、コロナ禍だからこそ！という思いで支援していただきました。その活動の根底には、子ども達は大丈夫か？先生方は大変になってはいないか？という、桔梗小を思う地域の皆さんの気持ちを強く感じました。皆さん自身も自粛生活で大変な中、学校や地域の子供達を気にかけてくださる気持ち。まさにこれが地域協働なのだと皆さんと関わる中で実感していました。そんなやりとりをしながら、校長先生が「桔梗小はまさに”人“が宝の学校だね」と言っていたのが、とても印象的でした。



新学期準備や見守り・消毒作業



形をかえて環境整備や学習支援



学校運営協議会以外にも様々な懇談を重ね熟議しながら検討・活動

コロナ禍の一年をふり返って

『務まるのかね～』

重 勇雄 <木曽檜川小学校・檜川中学校>

<超ベテラン&地域密着の前任コーディネーターさん>

塩尻市が学校支援コーディネーターを中学校区に配置したその当初・草創期から、この檜川地区でコーディネーターを務められたのは、Tさんだった。Tさんはコミュニティ・スクールの根幹の学校運営協議会や地域教育協議会の立ち上げに加え義務教育学校準備会等々の出発から関わった方だ。

Tさんは、現在、奈良井区長を務める。塩尻市との合併前の檜川村時代から役場そして市役所で活躍した檜川地区の顔である。地区の方々のつながりや地区の事情・歴史に詳しく行動力もあつ

てコーディネーター役としてこれほど打って付けの方はいない。令和元年度をもってコーディネーター役を退かれたのは区長を務めるという理由。そんなタイミングで私にこの役を務めないかと話がきた。

Tさんの地域での顔の広さは、私も知っていた。Tさんに代わって同じように仕事を引き受けるのは無理。私には務まらないと迷った。



<木造校舎と桜>



<緊張の4/1 職員紹介>

赤羽教育長との面談の時に、このことを述べると、

「地域のことは分からないことがあるかもしれないけれど、学校のことは分かることが強み。」

と言っていた。Tさんと違うけれど、自分でなければできないことも確かにあるに違いない。自分の持ち味（あるとすれば？）を活かして自分の仕事をしよう。（これまであまり貢献してこれなかった）地域に少しでも貢献しよう。と思った。

<例年をなぞれない・・・コロナ禍の学校支援コーディネーター>

4月中旬 子ども達は入学式直後、学校に来ることができなくなった。

初めての仕事となるはずだった第1回学校運営委員会もできなくなった。通知や資料、座席札・・・すべて用意したが、中止。そしてこのあとの一学期予定されていたことが次々と中止や延期となった。

と書くとわずか3行だが、一つ一つは苦労の連続。

例えば通知配布。やっとの思いで地域の方へ開催通知を出したあとの中止決定。慌てて中止の再通知。地域の方への通知配布もTさんなら自分で配達。なのに私は名前を見ても家が分からない。困っていたら、教頭先生に助けていただいた。

「平沢地区は〇〇さんに、奈良井地区は□□さんに頼みましょう。」私の分かるのは贛川地区のわずかな方。「それ以外は郵送しましょう。」こうして何とかこの問題は、クリアした。(来年度は配布のボランティアの方お願いできないかな)

第1回目の学校運営協議会は、8月初旬にやっと開催することができた。



＜収穫したサツマイモで焼き芋大会＞

＜地域の方に背中を押されて＞

この仕事に就く前に聞いたTさんの言葉・・・「校庭は草を生やさずピッカピカにした」「畑も耕したよ」が、頭の中でガンガンと響いている。

休校が続く中、校庭の草は伸びる。時期を逃したら、草は伸び放題。田畑にはなにも育てることもできなくなる。どうしよう。どのように始めればいいのか???



＜日曜日 肥料をまくTさん＞

草を刈ったり、プール清掃を手伝ったり消毒ボランティアをお願いしたり・・・そのたびに地域の方が「子ども達のためになるならば」と気持ちよく動いてくださってやっと1年が巡ろうとしている。

昨年度のことからすると、活動が十分ではないかもしれないが、子ども達の明るい笑顔をお願いながらコーディネーターとして務めてきた。

他中学校区のコーディネーターさんの若く澁刺とした活躍ぶりを見ると、これでいいのかな?と心細くもなる。課題も山積みだ。

「できないところはそれなりに理由があり、また、できているところはそれも理由がある。」と研修会の中、池上先生が言われていたのを、自分の胸の内に拾って広げている。

できないところはそれなりの理由。そうだな。比較ではなく、自分の目の前にある課題一つ一つに取り組むことなら、自分にもできそうだ。

これまで通り、私は私スタイルで、務めること以外できそうにないが、頑張るか!!



東っ子たちと歩んだ CS 活動を振り返って

塩尻東小学校・学校運営協議会
会長 宇治橋 邦彦

東小学校の近隣に住む私にとって、元気よく登下校する姿、大きな声で挨拶してくれる子どもたちに笑顔をもたらしています。そんな人たちも大勢いるでしょう。地域社会が積極的に学校運営に参画するという CS 活動は、その笑顔の輪を大きく広げることだと考えています。

塩尻中学校区においての育てたい子どもの姿の3本柱として、「多様な人と協働しながら主体的に活動できる子ども」、「心身ともに穏やかで、自己実現に向け学び続ける子ども」、「ふるさと（地域）の過去と現在を学び、知り、誇りと愛着をもち、地域の未来を拓き・語れる子ども」の育成を目指しています。また、当校では「ふれあい ひびきあい たかめあい」を学校教育目標に掲げ、グランドデザインを構成しています。東地区は、阿禮神社や中山道の宿場等を筆頭に歴史を感じるものが数多くあり、それらを「東っ子かるた」として表現し、学校や家族、地域でかるた遊びをしながら子どもと共に地域も成長していると感じています。地域の皆さんも子どもたちの為に素敵な行事を企画し、子どもたちも積極的に参加し交流も深まっています。少子化が進む中、学校、家庭、地域の絆を更に強固にするためには、学校運営協議会が中心となり、情報を共有し、連携を図り、熟議を重ねることで、地域の宝物である子どもたちがますます輝くことができるようにこれからも努めてまいります。

新型コロナウイルスの影響で社会が一変してしまいました。早く終息し、地域はもとより世界中で笑顔の花が咲きこぼれることを心からお祈りします。

暗いと不平を言うよりも、あなたが進んで明かりをつけなさい。



塩尻西小学校・学校運営協議会
会長 甕 剛

あなたは、あなたであればいい。帰って家族を大切にしてください。
この世で最大の不幸は、戦争や貧困などではありません。人から見放され、「自分は誰からも必要とされていない」と感じる事なのです。銃や砲弾が世界を支配してはいけません。世界を支配していいのは、愛です。100人に食べ物を与えることができなくても、1人なら出来るでしょ？小さなことを大きな愛をもって行うだけです。大切なのは、私たちがどれだけの行動をするのではなく、それをするのに、どれだけ愛を注いでいるかです。私たちがどれだけ与えるのではなく、それを与えることに、どれだけ愛を注いでいるかです。

これはマザー・テレサの言葉ですが、私の考える CS の活動はまさにこの言葉全てだと思っています。子どもたちの為に、保護者の為に、先生の為に、学校の為に、地域の為に、という気持ちが大切だということです。

まだまだ CS 活動の十分な周知には至っていないのが現状です。しかし、一つ一つの小さな活動と、大きな愛を持って継続して行くことが大事なことだと思っています。子供も大人もみんなが安心して笑顔の絶えない町にしたいものです。



C S に 感 謝

桔梗小学校・学校運営協議会
会長 小野 伸二

私が、このCSを初めて知ったのは平成28年4月でした。当時は2人の子どもが桔梗小学校の児童で、縁あってPTA組織の役員になって間もない時でした。初めは自分自身も、学校の先生方もより一層多忙になる厄介な組織ができなと感じました。

その気持ちが大きく変化したのは、翌年の桔梗小学校開校30周年記念事業の際でした。当時PTA会長であった私は様々な事業においてCSの皆様はじめ地域の皆様のお力をお借りし30周年記念事業すべて無事にとり行うことができました。特に、30周年記念コンサート、第一回キッズお仕事チャレンジの開催は大きな喜びでした。

令和2年度はコロナウイルス感染症拡大の影響を受け、当初予定していた学校行事の変更や中止、そのことによる子どもたちに対する影響が懸念される年度となりました。しかし、そんな時でも何か子どもたちのためにできないかを模索し、活動できたのがCSでした。当初は少し厄介であると感じたCSが子どもたちの社会を生き抜く力の一助となっていることは最大の喜びであり、地域の力であったと自負しております。今年度ほどCSの存在意義をありがたく感じたことはありませんでした。

桔梗小学校はその校区が新興住宅に位置し、伝統も浅い比較的新しい地域にありますが、この地域にしかできない創意工夫をしたCS活動をより一層発展・進化できれば幸いです。

文末になりますが、今日まで桔梗小学校のCSにお力添えいただきました地域皆様、学校長はじめ教職員の皆様、PTAの皆様に感謝と今後のより一層のご協力をお願いします。



C S の 5 年 間 を 振 り 返 る

片丘小学校・学校運営協議会
会長 土田 旦

片丘小学校では、CS（地域と共にある学校づくり）が始まる前から地域と学校のつながりは深く、CSの前身となった畑・田んぼづくり、クラブデー、せせらぎ広場プロジェクトなどの活動が行われていました。

CSが始まって各活動の有機的関連がはっきりして横の繋がりができ相互理解が充実しました。また、中庭の芝生プロジェクト、公民館、図書館、学校が協働した夏ゼミ、などの新しい活動も行われ、地域との繋がりが深化してきました。一方でボランティアとして活躍して来た人達が高齢になり、活動に参加してくれる人が少なくなっで見守り活動などが難しくなっています。一億総活躍社会になって定年が延長され、この活動を支えてくれる次の世代の人がいない問題を抱えています。

新型コロナウイルスの流行は、外出自粛、テレワーク、商店の臨時休業など生活環境を一変させました。人と人との「繋がり」は、対面で集まっていた活動が基本だと思っていたのに、分散、リモートの活動になりました。新型コロナウイルスの感染はさらに広がり、CS活動は今までの経験では判断できない状況になったと感じています。私たちは今まで以上に新しい発想と行動力を持って、生活環境の変化という難しい局面を地域全体の協働で、乗り越えていかなくてはならないと思います。



宗賀小学校のCS活動&どんぐりプロジェクト♪

宗賀小学校・学校運営協議会
会長 丸山 保

当初、説明会の時、「俺たちに一体何をやれと言うんだい」そんな意見の中でスタートしたCS。同じ頃、宗賀地区では、財産区の発案で「森林の整備活用」と「子どもたちに自然の大切さ、楽しさ」を伝えていこうという「どんぐりプロジェクト」を立ち上げた。

宗賀小には、読み聞かせ、ぶどう作り、安全、部活動、環境整備など長年継続している支援活動があり成果を上げているものの、新たなCSについては、プロジェクトも学校も連携について模索していた。こんな時、1, 2年生の遠足の引率の依頼があった。これを機会に双方がかなり身近になった。どんぐりのメンバーは、「孫が小学生」という人が多く、学校から相談をされると最優先で出かけ、遠足のコースづくり、山遊び、川遊び、など色々提案をし、引率等の手伝いをした。子どもたちからは、「どんぐり君」のデザイン、「どんぐり夢広場に整備して欲しい内容」の提案などを頂きました。

どんぐりプロの中では、「学校の授業に割り込むような押し売りはしない」ということが前提で、「子どもたちが楽しく遊べて、かつ、先生の負担軽減につながれば」が活動の原点となっています。そして、学校と地域（どんぐり）のハブとなっているのが宗賀支所です。学校からの依頼を受けて、メンバーを集め、内容の検討など、支所の応接は第二校長室と言っています。今、先生方や、保護者が我々を信頼してくれているのがうれしい。



私の^{しごと}志事～コロナ終息後に向けて今できること～

広丘小学校・学校運営協議会
会長 太田 秀保

昨年の冬から新型コロナウイルスの感染拡大がはじまり、現在も世界中はコロナ禍の真っ只中にあります。「感染列島」という言葉が新聞では登場し、コロナ禍の猛威はまだまだ強くなり、今まで経験したことのない状況が起こるのではないかと不安が募るばかりです。

2年前からはじまった2年生への九九おじいちゃんおばあちゃん先生もコロナ感染防止で延期せざるをえない状況です。楽しみにしているおじいちゃんおばあちゃんもコロナ終息後の再会を心待ちにしていることでしょう。「えんてらす」をはじめ地域ではコロナ禍で何ができるのか模索し、新しい動きが見えてきました。小学校でも感染防止に万全の注意を払いながら、奨善会(しょうぜんかい)では「シトラスリボンプロジェクト」が新たにはじまりました。「友達を傷つける言葉は言わない」「まわりの人に感謝する」という奨善会長の「宣言」を受けて学年相応の取組が行われています。愛媛県からはじまったプロジェクトに賛同した「えんてらす」の運動に奨善会も参加し、全校あげて差別や偏見の根絶を願う児童の姿は「持続可能な社会づくり」に通じるものがあります。

広丘小の今後は「持続可能な社会づくり」に向けて北部交流センター「えんてらす」や短歌の里の象徴である塩尻短歌館、「わがふる里ぞ広丘は(校歌の一節)」とともにあることが理想です。会長の役目は地域とのつなぎ役です。「地域で学ぶ」「地域に学ぶ」「地域と学ぶ」「地域に返す」の視点で人・ものとの発掘と出会いの機会を大事にしたいと考えています。



地域と学校との協働の難しさと大切さを実感した 5 年間

吉田小学校・学校運営協議会
会長 森田 和敬

「子どもの未来を地域で育む」の理念のもと、地域と学校が協働する新しい仕組みでスタートした CS 活動も早 5 年が経過しました。

最初は何をしたら良いか・・・も分からず、取敢えず、夏休みの子どもたちの「居場所づくり」の「夏ゼミ」に特化した取組からスタートしました。

吉田小学校の特長は、全校児童が吉田に住んでいて、地域の人達も吉田小卒業生が多く、学校と地域の距離が近く「吉田区立吉田小学校」なんて言われている強味があります。経験豊富な地域の人達が、子ども達のためなら・・・と色んな講座を引受けて頂き、予想以上の夏ゼミがスタートでき、毎年少しずつブラッシュアップして 5 年が経過しました。

子どもたちの豊かな創造力で地域のキャラクターを創ったり、伝説を紙芝居にしたり、吉田で採れた食材で作った「吉田っ子レストラン」、「木工細工」等々、子ども達の思い出づくりに必死に取り組んだ 5 年間でした。今では、「夏ゼミ」と言えば、「吉田小学校」と言われる程になりました。運営面では、まだまだ担当先生方に大きなご負担を頂いており、今後の課題です。先日、校長先生から「吉田小学校は不登校児童がゼロなんですよ」とお聞きし、大変うれしく思いました。また、来賓玄関に「行くも、帰るも笑顔」という額が掲示されております。この言葉こそ CS 活動の神髄で、我々の目指すところだと思います。



CS 指定からの 5 年間をふり返る「地域と共に伸び行く洗馬っ子」

洗馬小学校・学校運営協議会
会長 大栗 克実

当初は「コミュニティ・スクール（CS）って何？」から始まりましたが、洗馬小学校では以前から地域の方々により幾つかの支援活動が行われていましたので、その活動をベースに CS を横断的に組織し、愛称を「洗馬っ子スクール」と名付けて活動してきました。

また、同時に当時 82 年前の昭和 9 年に地元の方から寄贈されたグランドピアノを、修理して甦らす活動も進めており、地域の皆様やご関係の方々の温かい寄付金により見事に修復され、平成 28 年 11 月に地域の皆様にお披露目ができました。

このピアノは価値のある「洗馬の宝」として、CS 活動の拠点でもある「洗馬っ子ルーム」に置いてピアノコンサートを開催し、地域の方々が学校に集い児童と共に和やかな時間を過ごす事ができる、地域と学校を結ぶ架け橋として CS 活動のシンボルとなりました。

また、地元に伝わる「ささら踊り」も地域の方々と児童が協力して、ささら作りから始め、運動会や地区の文化祭で踊れるようになりました。

この様にして、地域と学校が協働して子ども達を育てる姿ができあがってきました。今後も、この素晴らしい活動を多くの方々に知って頂きご協力頂くと共に、後継者の発掘や人材確保を進めながら、更に一歩先を見定め課題解決型の CS 活動を展開し、学校と地域が一体となり子ども達の育成と地域の活性化を図りつつ、ふるさと洗馬について学び考え、地域への愛着と誇りを深め、新しい時代に歩み進む、「地域と共に伸び行く洗馬っ子」として大きく羽ばたける様に努力したいと思います。



未来をひらく 檜川義務教育学校に向けて

檜川小・中学校 学校運営協議会
会長 橋戸 勝

地域と学校で協力し育てることを基本としてスタートしたコミュニティ・スクール。その取組は、檜川地域の特性である自然・産業をテーマに学校・地域・家庭・子供が連携して進めてきました。特に贅川、木曽平沢、奈良井という二つの地区から構成される檜川地域は農業の贅川、木曽漆器の平沢、奈良井宿観光の奈良井という特色を生かした各種学習、特に漆器に関わるふるさと学習、地域行事への参加、観光キャンペーン活動、修学旅行でのふるさとPR、学校農園での米や塩尻唯一の伝統野菜羽淵キウリの栽培、保育園児やお年寄りとの交流等々、スタートから現在まで着実に活動を実践してきました。

児童・生徒の減少という状況の中ではありますが、地域が学校を支える、学校が地域を支えるという共通認識を地域で共有し、在校児童、生徒のいない家庭の準会員制度の継続、学校屋外環境の整備ボランティア活動（校庭整備、学校周辺の除草、下校後のコロナ感染予防校内消毒活動等）も地域の皆さんの協力をいただいております。

地域の願いは子供さんが充実した学校生活を送り、9年間の学びとふるさと檜川に思いをいたして素晴らしい未来をひらいてくれることです。スタート以来進めてきた活動の成果はおおむね順調であり、今後の課題につきましては、令和4年4月開校予定の義務教育学校の準備とともに、アクションプランの策定を通して進めてまいりたいと思います。



コロナ禍での所感

両小野学園 学校運営協議会
会長 岩下 隆弥

2020年の干支は劇的変化が起きる「庚子」の年。世界中がコロナ禍に翻弄された一年となりました。両小野学園でも学校行事やCS活動の中止や縮小が続き消化不良の一年間が終了します。しかしながら一方では激変の世相を注視しながら物事を本質的・長期的な視点から熟考できた一年でもありました。

私自身後期高齢者の仲間入りをして戦後75年の昭和・平成を顧みながら令和の処し方と対峙。21世紀に出現し燎原の火の如く広がっていく一貫教育やCSの行く末に思いを馳せながら、立ち上げて10年目の両小野学園の将来像はいかにあるべきか、等々これからも熟議と協働の精神を大切に関係者の皆様と取り組んで参ります。

世の常として特殊なことが一般的な常識として認知されるまでにはそれ相応の時間と努力が求められます。長い時間を必要とする教育の世界において“僅か20年間”で全国津々浦々に受け入れられている一貫教育やCS。普及した理由は令和時代が抱えている停滞や不安を再生し成長させる要件を備えているからでしょう。2021年は辛丑（しんきんのうし）年。ご宣託は60年に一回の「新しいことにチャレンジすれば実を結ぶ」です。



「地域ふれあい学習」によせて

塩尻中学校・学校運営協議会

会長 平林 袈裟雄

塩尻中学校の総合的な学習「地域ふれあい学習」は、学校と地域住民が力を合わせてすすめてきた特色ある活動の一つです。生徒の希望した講座を15～17講座に絞って開設します。各講座は、全校生徒縦割りで、原則地域住民が講座講師を担当します。講座回数は1回110分で10回実施しています。平成26年度村上校長先生の時に開設され、それから柳生校長先生、そして小林校長先生と今年で7年目となりました。

振り返ってみますと、昨年は、夏休みの半日を1単位時間にあて、塩尻中学校区内17地区の分館を会場にして活動しました。学校も地域も学習の深まりやその地域との絆も体現できました。「令和2年も継続して」という地域からの強い要望もあり、その方向で進めていましたが、本年度はコロナ禍感染拡大防止の観点から、大きく路線変更が求められました。

感染防止最優先で、学校内と外部との接触を最小限にし、生徒の安全安心を担保してきました。そんな中、学校側のご尽力のお蔭で、講座回数は10回から7回に変更し落ちてきた7月から講座を開始して、10月の閉講式まで安全に実施することができました。

1年目から調査内容を地域に発信していた「郷土の歴史」班は、今年もえんぱーくを会場に「第7回地域学習発表会」を11月15日に開催でき感謝しています。

学識者は、コロナワクチンが接種されるようになって、安心安全という状態になるのに4・5年かかると言っています。どうも先は長いようです。今後も学校と地域で、できる範囲で「できる」ことを模索し、「夜明け」まで希望を灯し続けていきたいと思います。



そり作り教室を通して

塩尻西部中学校・学校運営協議会

会長 中野 弘明

そり作りを始めたきっかけは、当時の4年生が、「どんぐりの森をすてきな森にする」ために、みんなのアイデアから始まった。

そりの材料を準備し、加工を始めると自分が子どもの頃の事が思い出されてきた。自分の遊び道具は、自分で作らなければならなかったからだ。

材料の準備が終わり小学校へ運んだ。そり作りの当日「どんぐりプロジェクト♪」メンバー5人と当時の4年生で作り始めたが、木が堅いため、初めのうちはうまくいかなかった釘打ちも、メンバー5人の手助けで徐々にコツを得てくると児童たちの目の色が変わってきた。いきいきとしている。軽快な音を響かせプロジェクトメンバーも少年に戻ったように楽しんでいる。そうこうしているうちに、でき上がったそりにそれぞれ班ごとに名前を入れて外の斜面で滑り始めたが、初めはうまく滑れなかった。だが、段々滑れるようになると次から次へと滑っている。ここでもプロジェクトメンバーが楽しそうに見ている。中には、自分で滑るメンバーもいた。

そして、冬の空のもと自分たちで作ったそりを持ってどんぐりの森へ行き、自分達だけのコースを作り滑っていた。

昨年、今年は、新型コロナウイルスで、そり作りは中止になったが、当時4年生だった生徒は中学生になっている。作ったそりは、小学校に大事に保管され後輩達に引き継がれている。



C a f é 丘

丘中学校・学校運営協議会
会長 八島 思保

丘中学校では、真に地域に開かれた学校づくりを目指して、Cafe 丘をオープンいたしました。新しい教育の在り方とは、学びの進化です。座学は基礎力であり、経験は肯定感を生み出し、人とのつながりは、真理を得ることができます。

同質性の高い空間での授業構成には限界があり、エビデンスのないルーティーン化した規律と思考の継続や、競争の社会から脱出できない教育を、Cafe 丘は、生徒、地域、教職員の3方向から柔軟に考えるための第1歩の場であると思います。休み時間は生徒の息抜き場となり、他クラス他学年と交流をし、地域住民と他愛もない会話を交わし合うことで、様々な世代のインフルエンサーを活用することができます。差別や年齢を問わない社会の実現を目指して、潜在的な課題を見出し取り組んでいくことこそが、未来への次なる一手となるのです。画一的な物事の考え方ではなく、曖昧さである、ファジーな領域を体感していくことが、多様性のある教育であると思います。他人からのインストールをどれだけ早くアウトプットするのではなく、自らがセレクトし、自分軸の価値観を作りあげていくことを、これからは目指して行かなくてはならない。

予測困難な未来が現実となった今、問題の評論はいりません。つながり合い、求めあい、気づき合い、認め合う、そんな小さな出来事を拾ったその先に、未来があります。Cafe 丘は、新しい学校の在り方なのです。



鳴りひびけカリヨン こころの歌よ♪

広陵中学校・学校運営協議会
会長 薄田 利秋

本校のシンボルはカリヨンです。金井 直先生の作詞による校歌は人々のこころに響く校歌だと思います。この校歌には生徒を取り巻く人々や見知らぬ世界の人々の命への愛、美しい郷土・自然への愛が主題となっています。カリヨンが鳴りそして時が流れ、愛、夢、人格が育まれてゆく、そのような学校であり原点でありたいという熱い願いが籠められています。

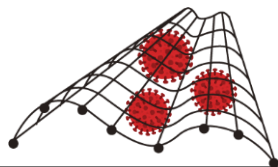
本校のコミュニティ・スクールに携わって数年が経ちます。私の机の前には校歌が貼ってあり、折々深い文節を味わっています。その校歌が最も光り輝いたときがあります。

平成30年本校は創立30周年を迎えました。記念事業はコミュニティスクールの一環として位置づけられ「過去から学び新たな次代へ～カリヨンがつなぐ学校と地域の絆～」をスローガンに1年前から準備を進めてきました。平成30年9月29日の記念式典。そのフィナーレを飾ったのが在校生、教職員、地域住民など全員による校歌の大合唱でした。体育館いっぱいに広がる混声3部合唱のカリヨンのひびきは今でも鮮明に蘇ってきます。

学校の先生方、生徒達、協議会委員そして地域の皆さんなど多くの方々が歴史の節目として記憶に残る事業にしたいとの強い思いを抱いていました。この目標に向かって協議、協働を重ねる毎に、より強い関係性、連帯感が生まれたことで次の活動への弾みがついたと思います。次代を担う生徒達の成長や安全な環境をつくるため、明日に向かい皆が楽しく笑顔で参画活動できる体制を目指します。



塩尻市教育委員会の窓から



2020年（令和2年）度 塩尻市コミュニティ・スクール実践集のテーマ

アンダー コロナ禍 未来につながる大きなチャレンジ！

～ つながり 広まり 深める 各校のコミュニティ・スクール（CS）活動 ～

この実践集の表紙の絵は、小学校4年生の国語の教科書（「国語四・下・はばたき」（光村図書））に掲載されている「ごんぎつね」（新見南吉・作、かすや昌宏・絵）を読んで描かれたものです。この作品の中には様々な情景が描かれていますが、実体験がないと描かれている情景を思い浮かべ、感じ取ることは困難です。さらに、それらと言葉が合致しないと、正確な情景把握や登場する人物やキツネのごんの繊細な気持ちまで読み取る（感じ取る）ことは難しくなります。そして、その理解が不十分なものどうしが「話し合い」「学び合い」という学習形態で授業をしたとしても「深まり」は期待できません。



体験・経験して感じた（思った）ことをひとつひとついねいに言葉とつなげていく地道な作業（学び）こそがこれまでの社会においても、またこれからの社会においても、人として「生きる力」「生き抜くための力」の基盤になると確信しています。美しいものを見た時に「美しい！」と言葉となって心の中で感じられ、言葉として表出できるようになることが何より大切だと思います。そのひとつひとつの地道な積み重ねが、ひとりの人間の「人生」「人間性」「社会性」をより豊かにしていくのだと思います。

そのようなことを考えるとき、ひとりの子どもがより多くの「ひと」「もの」「こと」と出会い、より豊かな体験・経験を重ね、それらと言葉とをしっかりとつなげていくことの大切さが分かっていただけだと思います。塩尻市のコミュニティ・スクールの基盤はこのようなところにも置かれています。

本年度はコロナ禍により、これまでたくさん行ってきた「地域と学校とが協働して行う活動」が大幅に減ってしまいました。とても残念な1年間であったと思います。子どもたちが人として大きく成長するための大切な学びが削がれてしまい、二度と取り返しのつかない1年間となってしまったのですから。

しかし、そのような中においても子どもたちに誇れる立派な活動がありました。それは「コロナだから中止する」のではなく「このような状況下であっても、子どもたちの育成のために、やれることを工夫して行おう」とする大人の姿です。子どもたちのために挑戦（チャレンジ）する姿は、子どもたちに「カッコよく」伝わります。何よりもかけがえのない教材になります。英語で hidden curriculum（ヒドゥン・カリキュラム：隠れた教育課程）と呼ばれ、教育の中核を形成するものとして大切にされてきています。

■昨年度末（2020年2月下旬～6月）大勢の人が集まる機会の回避

昨年度末、COVID-19（新型コロナウイルス）の感染拡大防止のためすべての学校で休校措置が講じられました。いったんは解除されましたが、4月16日に全国に第1回目の緊急事態宣言が発出されると同時に再び休校となりました。1か月後の5月中旬の宣言解除後より段階的に開校措置が進められ、1学期も終盤に近づいたころようやく一斉登校ができるようになりました。

この間塩尻市としては、大勢の地域の皆さん方が集まって協議・熟議をする（＝ソーシャル・ディスタンスや3密回避の確保が困難）学校運営協議会や地域教育協議会を開催することを止め、第1回目の会議を夏に延期することにしました。

■CS懇談会の実施

マスク着用でソーシャル・ディスタンスや3密回避の確保、そして手指消毒の徹底による少人数での会議なら大丈夫そうだ、ということがわかってきたので、学校（特に校長先生や教頭先生）とCS会長や学校支援コーディネーターとのコミュニケーションを密にすることが大事



「つながりー広まりー深まる」ための第一歩と考え、5月より「CS懇談会」という名称で、校長先生・教頭先生・（教務主任の先生）とCS会長、学校支援コーディネーター、市教委CS担当（池上）により情報などを共有するための懇談会をスタートさせました。本来ならば、より多くの地域の皆様方にこの懇談会に参加していただければより良いと承知していますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のためにもそうはいかずに、このようなメンバーで月に1回を目安に行ってきました。

その懇談会を通して教えていただいたことがありました。それが、CSに関わっている皆様方の「**チャレンジ精神**」でした。

「新型コロナウイルス感染防止のために中止する」と、予定を中止してしまうことは比較的容易だが、我々大人がこの姿勢ではこれからの社会を生き抜く力を持った子どもに育たない。子どもたちをよりよく育てるために「このように工夫すれば実施できるのではないか」と我々が知恵を出し合い工夫し、少しでも可能なことを実施していく。このような我々大人の生き方・姿を子どもたちに示していくことが大事だ。

恥ずかしながら私は4月当初、「残念だけど本年度は本市のCS活動は何もできないかな？」と思い込み、5月のCS懇談会の際に「多分コロナ禍で今年度はCS活動はほとんどできないだろうから、実践集を作るのは止めます。」と言っていました。

しかし、実際は休校スタート時から「何か自分たちにできることはないか」と、放課後に校内の消毒作業のお手伝い等を進んでやっていただいていた。CS懇談会を通して校長先生やCS会長さんなどからそのような具体例をお聞きし、とても頭が下がりました。そして、「こういった大人の姿こそ、記録に残し、後世に伝えていかなければならない。」と思い、本年度の実践集（2020）を刊行することにしました。

■この姿「チャレンジ精神」こそ5年目を経過した塩尻市CSの成果

あるCS会長さんが私に向かってぽつりと一言。

「もし塩尻市にコミュニティ・スクールがなかったら、今回のコロナ禍でこのような活動は生まれてこなかったと思うよ。コミュニティ・スクールがあったおかげだよ。」

「たれば」の話はあまりしたくありませんが、塩尻市のCSの立ち上げからこれまでの6年間関わってきて、確かにCS活動に関わっている皆さん方の意識が変容していることは事実です。これを数値化するとなると難しいのですが、CSに関わっている皆さん方の「自主性」「主体性」「チャレンジ精神」「ワクワク感」等々が年を追うごとに（CS活動実践を積み重ねるごとに）成長してきているな、と感じています。

特に昨年度から引き続いている「コロナ禍」における「チャレンジ精神の発揮」に関して述べると、このチャレンジ精神が生まれるためにはCSに関わる個々人の「自主性」「主体性」が土台としてあり、それらをつなぐ「絆」があり、熟議を通して「実践のための方策」を探り、ワクワク感を持ちながら実践していく、というルートをたどっています。これが自然に（当たり前のこととして）できていることが素晴らしいと思います。まさに地域の文化づくりとなってきているな、と感じています。



■来年度以降の取組に向けて

＜その１＞「地域学校協働体制で育む資質・能力 & アクション・プラン2021」

《これからの社会(Society 5.0)を生き抜くために必要な資質・能力》

平成28年度、塩尻市でコミュニティ・スクールが始まり1年が経とうとするとき、何人かの委員の方から次のような塩尻市のCS活動の行く末を左右する非常に重要な要望が出されました。

「地域と学校とで力を合わせて子どもを育てる」ということはとても大切なことで理解はしているが、協働してどのような子どもを育てたいのか、その育てたい子ども像を明確にし両者で共有して具現化を目指して活動していく必要がある。

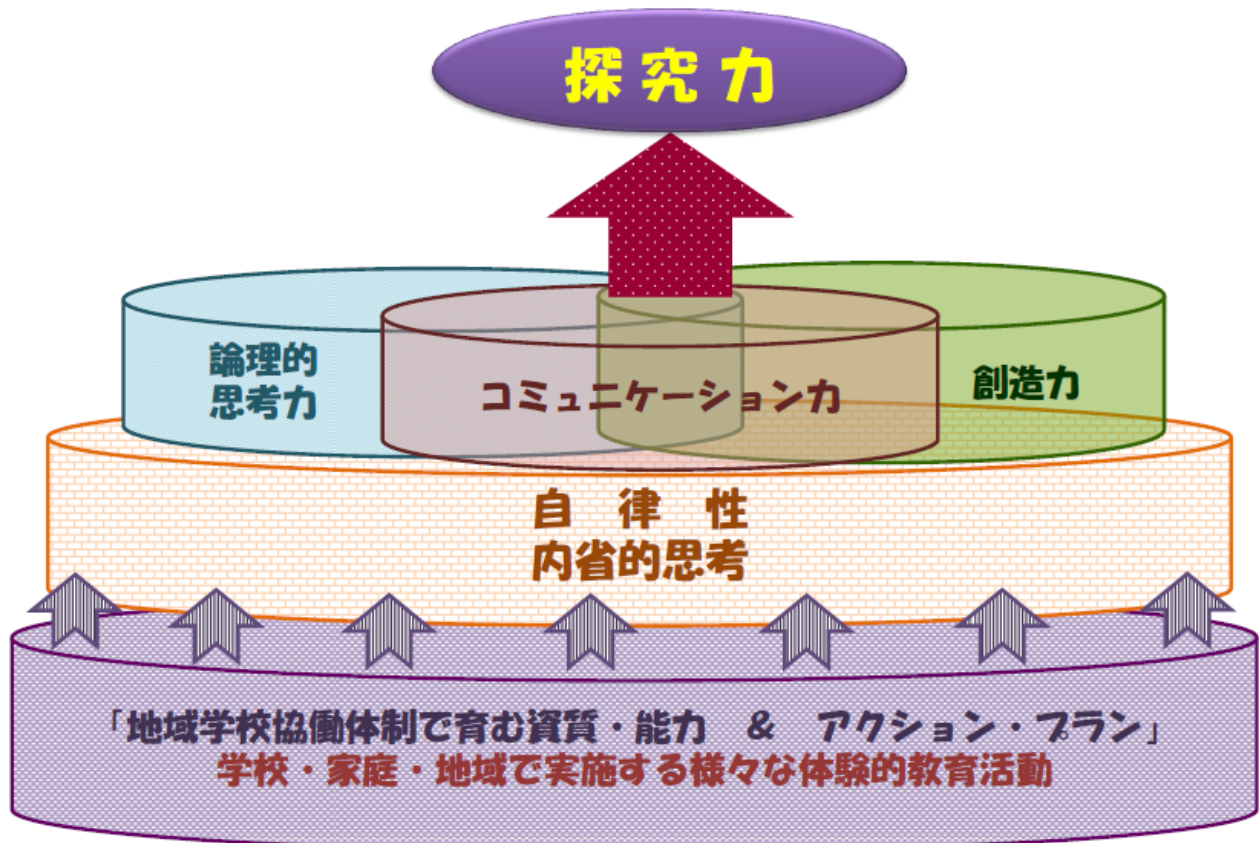
そこで翌年度（平成29年度）第1回目の学校運営協議会でグループワーク形式で考えを出し合い、精選した姿をまとめて明文化しました。また、同年度、中学校区別合同学校運営協議会にて「中学校区において小中一貫した9年間で育てたい子どもの姿」についてもグループワークにより考えを出し合い、明文化しました。それらについては、平成29年度の実践集から継続して掲載しています。本年度実践集でもP40からP45にかけて掲載してありますので、改めてご確認ください。

さて、それから4年が経過し、本年度より新学習指導要領による教育が小学校でスタートしました。中学校は来年度からの実施になります。その新学習指導要領実施のための基盤となっているのは「コミュニティ・スクール」ですが、これからの社会(Society 5.0)を生き抜くための力を育てていくために「資質・能力」というキーワードが使われています。これは、これまでの「教科・領域」という縦割りの指導でつけていくものではなく、「教科・領域」を横断的につなぎ、学校であるいは地域と学校とで協働して育てていくべき大切な核（コア）となっています。

この汎用的な「資質・能力」については多くの研究がされていて、様々な分類がありますが、塩尻市では新潟県上越市立大手町小学校が文科省指定で30年来研究してきた成果を参考にさせていただきました。それぞれの汎用的な「資質・能力」についての説明と構造図（イメージ）については次のようになります。

資質・能力	資 質 ・ 能 力 の 説 明
自律性	他者（もの・こと・人）との関係の中で、よりよさを追究し、自分で行動する力。 他者（もの・こと・人）との関わりの中で、自分自身のあり方を問いながら、自分の行動をよりよくつくる姿。
コミュニケーション力	自分と相手とのやりとりを続ける中で自己理解・他者理解をする力。 子どもが、ことばを用いて他者（もの・こと・人）と適切に伝え合う姿。
創造力	自分にとって初めてのものや価値を創り出す力。 知識や経験、技能、感性等を駆使して、音楽表現、造形・絵画表現、身体表現、発想をする姿。
論理的思考力	知識や情報を生かしながら、対象がもつ文脈や構造を明らかにする力。 子どもが、既習の知識や経験を用いて、対象がもつ文脈を読み解いたり、問題を明らかにしたり、道筋を立てて問題を解決したりする姿。
探究力	物事の本質を探っていく力。 子どもが、物事の真相・価値・あり方について、意欲的・計画的に道筋をたどり明らかにする姿。
内省的思考	自分の考えや行動を振り返り、これからの自分のあり方を考える力。 「5領域+学びの時間」の学びをつなぎながら、自己の成長に気づき、よりよい自分になろうとする姿。

「汎用的資質・能力」を育む基盤となるCS活動〈組織的・計画的な地域学校協働活動〉



地球規模の新型コロナウイルス感染拡大（パンデミック）により、Society 5.0 への移行が加速度的に早まってきました。もはやこれからの教育を学校だけに負わせることは不可能です。産官学民の様々な教育資源が協働して教育活動を進めていくことが不可欠です。

塩尻市では本年度、CS懇談会を通して下図のようなイメージを共有し、学校ごとに「地域学校協働体制で育みたい資質・能力&アクションプラン2021」の案を作成してきました。この案を12月の学校運営協議会の熟議（グループワーク）の資料として扱い、委員の皆様方よりいただいた意見や考えを付け足し、修正する形で本年度最終の学校運営協議会の資料として提案し、来年度よりこのプランに即した協働活動をスタートさせます。

◆「地域学校協働活動」とは◆

地域と学校とで「育てたい子どもの姿（資質・能力）」を共有し、その姿の具現化に向けて、一緒になって教育活動を行うことです。

この活動においては、地域と学校との間で「主従の関係」はなく、常に「対等の関係」にあります。



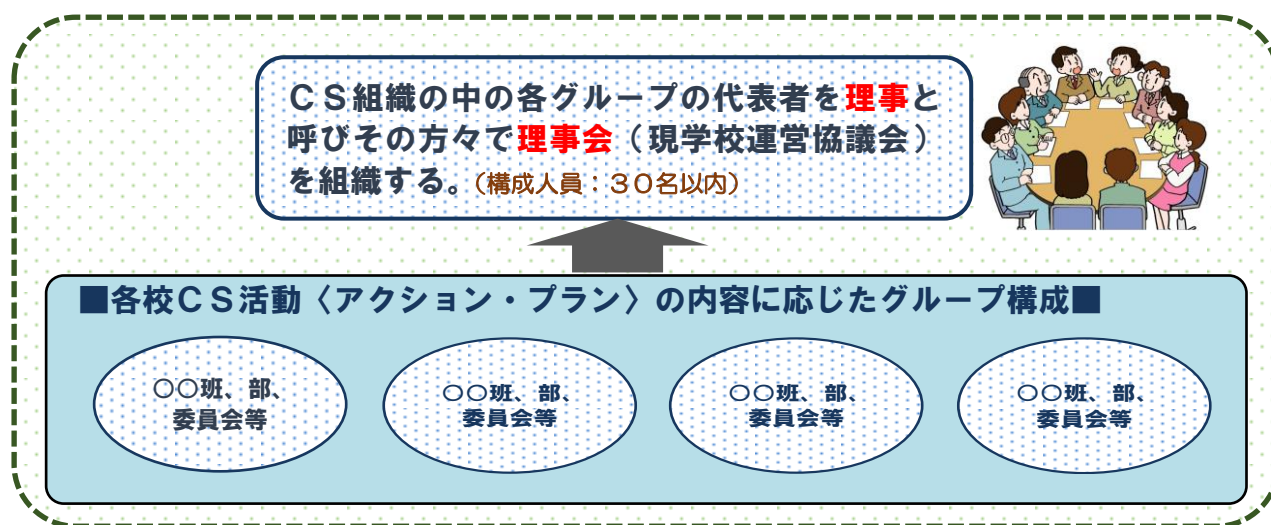
本年度は、昨年4月から毎月行ってきた「CS懇談会」と2回開催した学校運営協議会で実施したグループワークにより「**地域学校協働活動で育みたい資質・能力&アクション・プラン2021**」が完成しました（**Plan**）。来年度はこのプランをもとに「（家庭を含めた）地域と学校とで協働して実践されます（**Do**）。そして、「育てたい子どもの姿」や「育みたい資質・能力」という共有された評価の指標と照らし合わせて活動の評価を行います（**Check**）。行われた評価結果を分析し、さらに質の高い活動にするために熟議を重ね、次のプランを練ります（**Action**）。このような「PDCAサイクル」をしっかりと回しながら、螺旋状に向上していくCS活動になっていくことを期待しています。

＜その2＞「学校運営協議会」と「地域教育協議会」が一体的に活動できるようなCSとしての組織づくり〈わかりやすい「ひとつのCS組織」への移行〉

平成28年度からスタートした塩尻市のCSは次ページに示すイメージで「**学校運営協議会**」（熟議を柱に、学校運営に参画することを主な任務とする）と「**地域教育協議会**」（地

域学校協働活動を通して学校づくりや地域づくりに貢献する」という2つの組織で構成されています。「熟議」することと「協働」して活動することそれぞれを活発に行い、中身を充実させて（深化させて）いくことが主な目的でした。

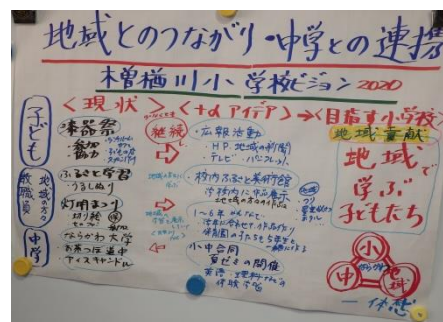
C S活動をスタートさせて一回り（1年）すると、それぞれのC Sから「学校運営協議会って何をしているの?」「地域教育協議会って何をしているの?」「同じ学校に関わっていて、目指す子どもの姿は同じなんだから、もっと互いの活動が見えるように、一つの組織にしていってはどう?」といった意見が出されるようになり、年を重ねるごとにその声は多くなり、強くなってきました。塩尻市のC Sがもう一歩前に踏み出すためのとても貴重な意見と受け止め、本年度C S懇談会で学校とC S会長にお伝えし、来年度までの2年間をかけて、今ある二つの組織を一つにまとめ、来年度以降のために作成したC Sアクション・プランがスムーズに実施でき、評価でき、深化につながるができるような仕組みづくりをしていきたいと考えています。その仕組のイメージは次のようになります。



プランに即し実際に活動すること（体験・経験）を通して具体を学び、課題や問題・疑問などを発見し、解決に向けて知恵や力を寄せ合い（熟議＋協働）一歩踏み出す。この繰り返し（サイクル）を通して螺旋状に上に向かって進む新たなC S組織にしたいと思います。

『コロナだからやめる』ではなく『コロナだけど、自分たちにできることは何かを真剣に考え実行していくことがわれわれ大人が子どもたちに示していかなければならない生きる姿勢じゃないのか。』このような「未来を切り拓く姿」が各C Sで具体的な姿で示されました。来年度もコロナは終息し切れない可能性があります。でも「一歩先へ」を合言葉に、子どもを中心に据え、「できることを、できるひとが、できるときに」積み上げていきましょう。我々の今の一歩一歩の豊かな積み重ねが、輝ける豊かな未来をつくります。

（地域連携コーディネーター 池上 良満）



★塩尻市コミュニティ・スクールに関するお問い合わせは、下記までお願いします。

塩尻市教育委員会 教育総務課 教育企画係（地域連携コーディネーター）

〒399-0786 長野県塩尻市大門七番町4番3号

TEL (0263)52-0280（代）内線 3111 FAX (0263)52-4354